

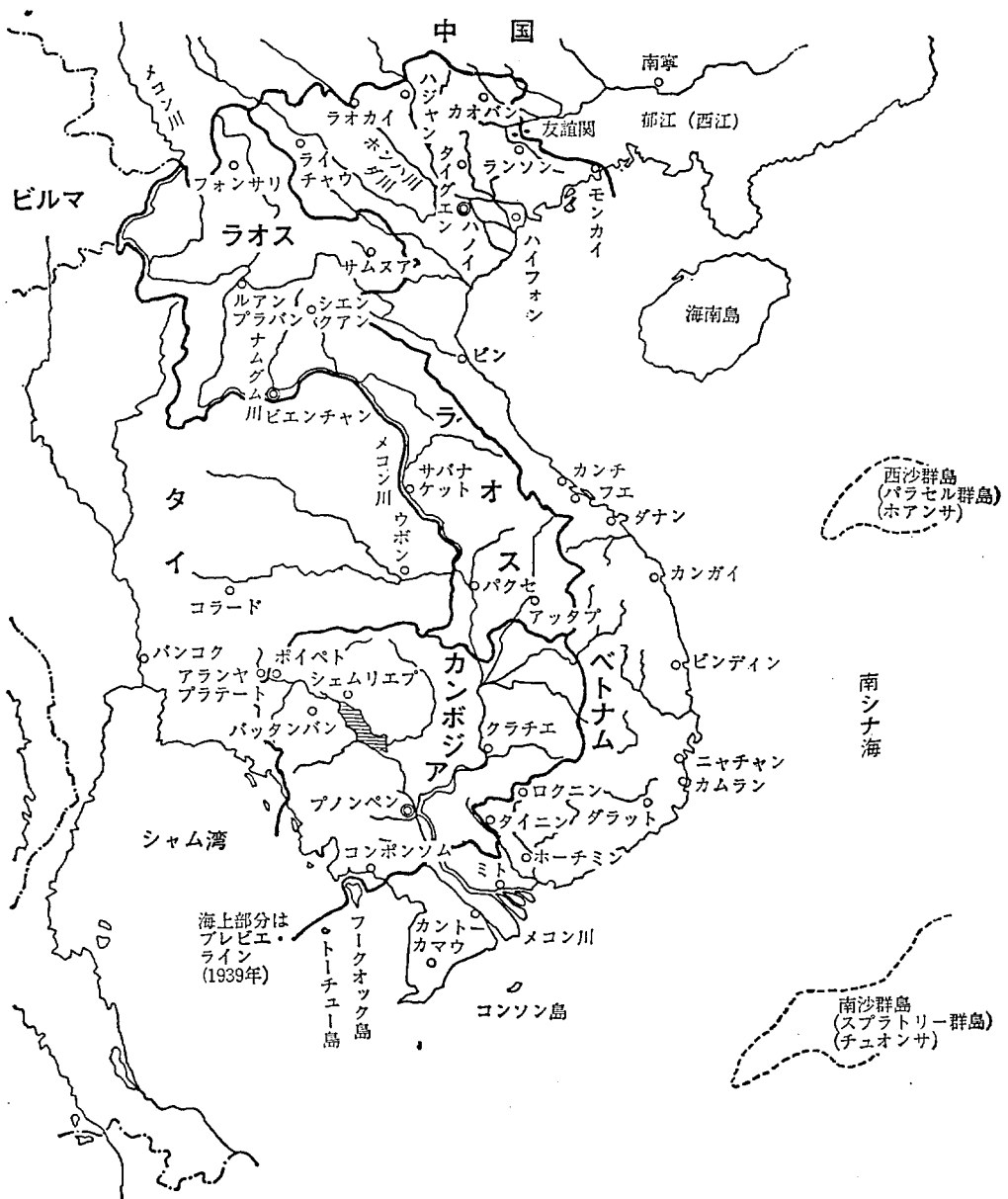
# カンボジア, ラオス

## 民主カンボジア/カンプチア人民共和国

面積 18万km<sup>2</sup>  
 人口 720万人 (1984年)  
 首都 プノンペン  
 言語 クメール語  
 宗教 仏教 (上座部)  
 政体 共和制/社会主義共和制  
 元首 シアヌーク大統領/  
 ヘン・サムリン国家評議会議長  
 通貨 リエル (公定レート: 1ドル=30リエル,  
 自由レート: 1ドル=130リエル, 1986年5月)

## ラオス人民民主主義共和国

面積 23万6800km<sup>2</sup>  
 人口 358.5万人 (1985年3月)  
 首都 ビエンチャン  
 言語 ラオ語  
 宗教 仏教 (上座部)  
 政体 社会主義共和制  
 元首 スファヌボン大統領  
 通貨 キップ (旅行者レート:  
 1ドル=108キップ, 自由  
 レート: 1ドル=430キップ,  
 1986年5月)



# 1986年のカンボジア、ラオス

平和と善隣関係を求めて

木村 哲三郎

## カンボジア

●政治戦争への転換 1984～85年の乾期、ベトナム軍の攻撃を受けて国境の基地を失って以来、民主カンボジアの各派は戦術をカンボジア内部でのゲリラ戦に切換えた。いまやカンボジアの戦争はその様相を一変しつつある。彼らは国境沿いのバタムバン省やシエムレアプ・オダルメアンチャイ省のベトナム軍陣地を攻撃するばかりでなく、ブノンベンやコンボンスプー、モンドリキリでも少人数での攻撃を行なっている。

行動の範囲がタイとの国境周辺から内部に広がっただけではない。ゲリラはベトナム軍だけを攻撃し、人民共和国 (PRK) 軍に対しては政治宣伝を行ない、叛乱や脱走を勧めるのである。また村や部落にその支持基盤を作ろうとしている。戦争は軍事中心のものから政治戦争、心理戦争の様相を帯びてきているのである。

ココン省の PRK 軍第2師団は1月初め、防衛ライン構築のための土木工事に送られるカンボジア人農民の取扱いをめぐってベトナム軍 339 師団に反抗したために解散させられた。2月にはコンボンチャム省でベトナム軍と PRK 軍が衝突した。理由はベトナム兵がカンボジアの産物を本国に送るのを阻止したこと、ベトナム軍が農民にキログラム当たり 2.5<sup>2</sup> で米を売るよう強制したのをカンボジア人兵士が止めようとしたことであった。

クメール・ルージュの放送は、ベトナム人によって設置された村落行政機構の解体を呼びかけている。

このように戦争の様相が転換してきたのに対応して、ブノンベンの PRK 政権側でも軍の再編強化、規律引締めを行なっている。

3月17日党書記局は軍建設についての指令を出したが、そのなかで徴兵を活発にすること、家に

逃げ帰った兵士に対しては復帰を奨励すること、戦死者の家族や戦傷者の面倒をみること、国境の防衛ライン構築作業に人民を動員すること、強力な地方軍や民兵を作ること、戦闘村を建設することが命令されている。

中央では地方武装勢力の幹部のための訓練コースが開かれ、軍の機関紙は、敵は平和、中立、国民和解などを主張し、またベトナムとの団結を中傷することによってわが軍民をだまそうとしている、若干の部隊は軍の役割と義務を理解せず敵の心理戦争に乗ぜられている、とたびたび警告を発している。

ベトナム軍筋は、1985～86年乾期の掃討作戦は東部ではうまくいったが北部と西部では進捗しなかった、原因は PRK 軍の経験不足である、現在 PRK の武装勢力 (正規軍 3 万を含めて) は 5 万～6 万で、今後増強の予定である、と語った。

PRK 政府はゲリラの浸透に対抗して戦闘村を建設し始めた。また報奨金を倍にするなどゲリラに対する帰順工作にも力をいれている。そして中央や省レベルの官吏を農村に派遣し、農民とともに生活させ、農民の心を政府側に引きとめようと努めている。このようにいまやブノンベン政権の軍事的政治的強化が課題になったのである。1986 年中に 2 回も行なわれた内閣改造もこの一環であろう。3月の改造ではカンサリン内相が人民最高法廷議長へ、ネイペナ内務次官が内相に、サイチュム・コムボンスプー省党書記が農相に、チャイタン大蔵次官が蔵相に、コンサムオル・ゴム園局長が農業担当國務相にそれぞれ任命された。12月の改造ではフンセン首相が外相と党外交委員長を兼任を、ブータン副首相が国防相の兼任を、チャソト副首相が計画相の兼任をそれぞれ解かれ、外相にはコンコルム外務次官が、党外交委員長にはヨスソン副委員長が、国防相にはコイブンタ

国防次官兼参謀長が、計画相にはチアチャント外国貿易銀行副総裁が任命された。これらの人事は革命の経験より仕事に精通した実務家・専門家を配したとする評が一般的である。

12月の改造は行政の効率化のために兼任を解き、1省に各1人の大臣を置いて責任の所在を明確にしたものであろう。ブータン副首相は軍がその任務に充分に応えられなかったこと、チアソト副首相は経済不振の責任を取らされたものであろう。

民主カンボジア側は信用しないが、公約どおり、ベトナム軍1万2000人が本国へ撤退した。そして第13回インドシナ外相会議の声明でも1990年までに撤退を完了すると言明している。2月に開かれた第1期国会第10回会議が、86年で終わる任期を91年まで延長することを決定したのは、ベトナム軍の撤退、総選挙というカンボジア問題の解決に備えてのことであるように思われる。

●和平への動き 民主カンボジアのシアヌーク大統領は3月17日、政治解決のための8項目提案を発表した。従来の提案と異なるところはベトナム軍の撤退を2段階に分け、第一段階が終わったらプノンペンのヘンサムリン・グループと話し合いに入り、4派連合政府を樹立するという点であろう。ベトナム側は1990年までに撤退を完了する、PRKはボルボト一派を排除することを条件に他のグループ、個人との話し合いにはいる用意があるという従来の立場をくずしてはいない。

対立点は、どのような政府の下で総選挙を行なうかの一点に絞られてきているように見えるが、話し合いの当事者が誰になるかということも障害の一つである。秋の国連総会場で、ベトナム側がオーストリア代表を通じて、(1)カンボジア諸派(クメール・ルーージュがキューサンパン副大統領によって代表されるならばその参加に異議を唱えない)がウィーンのような中立都市で会合し、予備的討議を行なう。(2)第1回会談に続いてウィーンで国際会議を開き、これにはベトナムその他カンボジア危機に関わる諸国が参加する、という新提案をシアヌーク大統領に通告した。シアヌークはこれを承認せず、次の逆提案を行なった。まずシアヌークはベトナムの高級代表と会談する、この会談の後に民主カンボジア3派はプノンペン政権との4派会

談を行なう。クメール・ルーージュはシアヌークが侵略者であるベトナムとその犠牲者である民主カンボジアの立場を区別し、民主連合政府側の地位を維持したと賞讃した。ベトナムは「PRKがカンボジア人民の唯一合法の代表である」としてシアヌーク提案を拒否した。民主カンボジア3派のうち、ソンサン派の内紛は解決せず、シアヌーク派も汚職を理由にテアプベン將軍を解任した。話し合いの障害になっているクメール・ルーージュの3派内部での比重は逆に高まっているのが現状である。しかしクメール・ルーージュ内部でも、ボルボトの定年引退説や重病説が伝えられるなど組織の再編が進んでいるようである。

当事者間の和平への動きは頓挫をきたしたが、中ソ関係改善の動きはカンボジア問題解決に新しい風を吹き込んだ。7月28日、ソ連のゴルバチョフ書記長はウラジオストクの演説でカンボジア問題の解決を呼びかけた。10月13日の中ソ定期協議において、初めてソ連代表はカンボジア問題を討議することに同意した。ソ連の外交官や学者にはベトナム軍が1990年より早い時期に撤退すること、必ずしもPRKの現憲法の枠内での総選挙にこだわる必要はないという意見を表明するものもいる。87年には当事者双方もこうした国際的動きに対応して和平への前進を図らざるをえないだろう。

●米不足続く コンサムオル前ゴム園局長は7月28日の記者会見で、1986年前半の稲作は降雨量が少ないこと、他方でメコン河の水位が下るのが遅かったために計画の80%しか達成できなかった、農民がこの雨期に植付計画を100%完遂したとしても、カンボジアは年末までに1カ月ないし1カ月半の間、食糧不足に直面することが予想されるので、このため政府は国際機関や人道的援助組織に緊急援助を要請すると語った。

9月2日の『プラチエアション』紙は8月14日までに植付けは計画の43%、移植は25%しか進んでいない、早ばつで苦しんだうえにモンスーンの大雨で洪水の被害が広がっている、とくに米どころバタムバンとタケオ両省が打撃を受けていると報じた。9月27日の同紙によると9月半ばで田植えは計画の54%しか進捗していない。

11月、プノンペンの当局者はAFP記者に対し

て、1986年の米の総収穫高は約150万トに達するものと期待していると語った。同記者は85年の収穫高を135万トであったとしているが、これを信用すると86年の稲作は早ばつや洪水にもかかわらず、85年のそれより良好であったことになる。FAOの専門家は84年の米収穫高を197万ト、85年のそれを190万トと推定している。これと比べれば86年は大幅な減収と言うべきであろう。ベトナムの『ニャンゼン』紙は85年は200万ト近い籾を収穫したと報じた。しかし85年の収穫量を乾期作（植付面積12万ha、ヘクタール当り収量2ト）、雨期作（植付面積133万ha、ヘクタール当り収量1ト）として計算すると157万トとなり、収穫面積はさらに減少することを考えると、実際の収穫高はAFP記者の数字に近くなる。86年の稲作は85年と同じレベルかそれをわずかに上回ったと考えてよいであろう。

1987年1月7日の革命記念日にヘンサムリン議長は単位収量は伸びたが食糧は面積、収穫高ともに目標に達しなかったと述べた。政府は稲作面積200万ha（他の穀物を加えて250万ha）を当面の目標としているが、86年の計画が発表されていないので、判断のしようがない。85年の植付面積の計画目標は170万haであった。

いずれにしろ150万トでは、人口700万の食糧として200万トが必要なので、50万トが不足することになる。

稲作が不振なのは旱害や洪水のほか治安の悪化が原因となっている。とくにタイと国境を接するバタムバン省では民主カンボジア側がゲリラ戦術に切り換えたので、農村と町の物資輸送や人の往来に支障を来し、生産に悪い影響を与えている。他に働き手が国境沿いの防衛線構築のための工事に狩り出されたり（一説には50万人に上る）、軍隊にとられたりすることも原因になっている。

さらに問題なのは政府の手に米が集まらないことである。4月の段階で政府は目標の30万トに対して13万3500トの米しか買入れることができなかった。これは買入れ価格がキログラム当り2.5\$なのに自由市場では5月に10\$、11月に15\$となり、4倍から6倍になっているからである。価格が低いだけではない、社会主義商業網がまだ確立していないので政府が農民に安い価格で肥料、布、石けんなどを提供できないからである。

米を確保できないために、政府は労働者、公務員・兵士に対する配給を年初の2カ月停止した。彼らの給与は月額200\$なので副業に精を出さざるを得なくなる。軍の機関紙は兵士の生活条件を改善しないと士気にかかわると警告している。政府はインフレを抑え込むために、自由市場に対抗して社会主義商業網を広げようとしている。

プノンペン郊外の工場地帯で自転車、酸素、アセチレン、布、マッチが製造されているが、需要を満たせないで、ほとんどを輸入に頼らざるをえない。ソ連側の統計でみると、1985年1～12月のカンボジアへの輸出は9120万\$であったのが86年は1億1400万\$に増加している。政府が商人に対抗するために肥料や日用品の輸入を増したのであろう。カンボジアからの輸入は910万\$、870万\$で変わらない。

輸出が変化しないのに輸入が増加したことは、1986年のカンボジア経済の不振を物語るものであろう。公定レート1米\$=30\$に対して、自由市場での通貨交換レートは85年9月の1米\$=70～80\$から130\$（86年5月）に低落している。

## ラオス

●善隣関係の始動 ラオスはベトナムの動きに追従するのが常であるが、対タイ関係と対中国関係の改善においてはベトナムに先んじたようである。中国との関係改善を行なうとのインドシナ外相会議の決定を承けて、中国とラオスは関係改善のための外務次官級協議を12月22日から始めた。会談の内容は明らかでないが、中国の劉次官のバンコクでの記者会見によると、ラオス側は二つの問題を提起した。一つは中国がラオスの反政府抵抗勢力を支援している問題であり、他は中国のインドシナとくにベトナムとの関係である。前者に対して中国側は中国がラオス反政府抵抗勢力を支援していることはないと言った。後者に関しては、過去においてベトナムは侵略の犠牲者であったが今はカンボジアを侵略している。中国は侵略の犠牲者の側に立つと答えた。

中国側はラオスの外務次官が中国を訪問するよう申し入れたところ、ラオス側は原則的にこれを受け容れた。また中国側が現在の代理公使（Char-

gé d'affaires) 級の外交関係を大使級のものに格上げすることを提起したのに対して、ラオス側は検討を約束した。

『ネーション』紙によると劉次官らはラオス滞在中、ナム・グム・ダムを訪問するとともに、ラオスの華僑社会の代表者と会った。現在残留している華僑人口は2000～3000人とされている。

両国とも改善の意思はあるものの、両国関係の改善は今後の中越関係の展開に左右される。ラオスはベトナムに大きく先んじることはできないからである。

ベトナムやソ連との関係を除き、ラオスにとって最大の外交関係はタイとの関係である。ベトナムのカンボジア侵略に反対する ASEAN 諸国のなかでタイは中心的役割を果たしているの、ラオスの対タイ外交はベトナム・タイ関係によって大きく制約されることもまた事実である。

ラオスは山脈や森林ではなくメコン河によってタイと国境を接しているの、両者は社会経済的にも政治的にもつながりが深い。文化的なつながりも無視できないのである。

1975年にラオスが「社会主義化」して以来、ラオスはタイがラオス人の反政府運動を支援していると非難してきた。このために国境紛争もたびたび起きた。1984年6月に起きたバクライ事件はその典型である。両国はバクライ地区の三つの村の帰属をめぐる争っている。ラオス側は86年6月6日、話し合いを提案したが、タイ側は地方レベルで解決できるとしてこれを拒否した。ラオス側はシティ外相を非難していたが、タイのプレム内閣でシティ外相が再任されたので、9月24日、タイ側に高級会談のための準備会議を提案した。タイ側はこの提案を受け入れるとともに両国はそれぞれ善隣関係を促進するための措置をとった。10月18日、両国の伝統的ボート・レースがノンカイで再開された。また10月21日、タイは対ラオス輸出禁止戦略物資リストのなかから約100品目について禁止を解いた。11月27日と28日、ビエンチャンで両国協議が行なわれた。討議項目は互いに宣伝中傷合戦を止める、メコン沿いの交通・輸送を拡大するために通過点を増やす、対ラオス禁輸品目を273から61品目にまで削減する、県知事の貿易許可権限を現在の2万\$から3万\$に引き上げる、

森林合併企業の設置などであった。

いずれも貿易拡大を目ざしたものである。1986年前半(1～6月)のタイのラオスへの輸出は2億7000万\$, 前年同期比90%増、ラオスからの輸入は1400万\$, 前年同期比20%減であった。経済の悪化でラオスが輸入を大幅に増やさざるを得なかったものと思われる。タイの商工業者も貿易拡大を望んでいる。

●第4回党大会 年初からラオス各地ではラオス人民革命党の省大会や地区大会が開かれ、党全国大会の準備が始まった。5月15日から31日まで、第10回中央委員会総会が開かれ、カイソン書記長に提出した過渡期の総路線と第2次5カ年計画が承認された。この後各地で政治報告草案の研究会が催された。11月13日から15日まで、ビエンチャンで開かれた第4回全国大会には全国の党員4万4000人を代表して303人の代議員が参加した。ソ連からはアリエフ政治局員兼第1副首相、ベトナムからはフアム・バン・ドン政治局員兼首相、グエン・バン・リン政治局員、カンボジアからはヘンサムリン書記長・国家評議会議長らが出席した。

15日、新中央委員会(前回の55人から60人へ)、政治局員(7人から13人)、書記局員(9人)が選出されたが、人員増を別にすれば書記局に若干変動があったのみである。ヌハク、シバースト、ロバンサイの上位3人が退き、新人3人が入った。カイソン書記長の力が強まったことを示すものであろう。政治局と書記局の序列をみるとケオブンパン内相の地位がボンカムサオ国家計画委員長と逆転している。またソムサク・サイソンカム(Somsak Saisongkam)国防次官が中央委員に選出されなかったことも注目される。

10月にはスファヌボン大統領兼最高人民議会議長の健康上の理由から、プーミ・ボンビット副首相が大統領代行に、シソボン・ロバンサイ副議長が最高人民議会議長代行に任命された。

カイソン書記長は政治報告で、過去10年、幾多の困難や妨害にもかかわらず、祖国の防衛と社会主義の建設に成功を収めたとして第1次5カ年計画(1981～85年)に関して次のような実績を報告している。1985年のGNPは目標の80年比65～68%増に対して54%増、国内生産による国民所得は目標

の38～40%増に対して48%増、農業総生産は目標の23～24%増に対して42%増、穀生産は目標の140万トンを達成、水牛、牛の頭数は目標の年7%増に対して5年間で19%増、豚は年間目標の15.6%増に対して5年間で29%増、家禽は年間目標の40～50%増に対して5年間で57%増、工業総生産は目標の2.0～2.2倍に対して84年が80年比42%増、輸出額は目標の80年比3.4倍に対して3.2倍、輸入は目標の3倍に対して13%増であった。

第1次5カ年計画の実績を評価するとき、次の2点が注目される。米生産が目標を達成し、基本的に食糧自給を達成したのに対して、工業生産が期待に反している。社会主義セクターがほとんど100%を占める工業が悪く、27%しか占めない農業の成績が良いのは国営企業の経営システムに問題があることを示している。作物に対して畜産の伸びが低いのは、食糧自給が辛うじて達成されたこと、農業生産の基盤が脆弱であることを示している。次に輸入が目標の3倍に対してわずか13%増であった。輸入が抑えられたことはラオス経済が不況を経験したことを示している。ラオスのIMF諸国(ソ連等を除く)からの輸入は1980年の1億2340万ドルから85年には6360万ドル、このうちタイからの輸入は5000万ドルから2200万ドルへ激減している。この間ソ連からの輸入は5700万ドルから1億260万ドルへ増えているが、輸入全体を押し上げるまでには至らなかった。

カイソン書記長は過去10年の経験から次のような弱点を挙げている。一つは革命的警戒心が欠如しているために、敵の心理戦争と平和的に社会を変えようとする戦術の危険性を認識しなかったというものである。治安強化を主張するのはそれだけ民衆の不満が強いのであろう。第2は経済運営に関するものである。依然として政府や中央に頼る傾向、機械や車両がくるのを待っていて、既存の道具を改良して働くという姿勢がない。生産単位は政府の補助金に頼っているの、中央集権的官僚的経済運営がなされている。第3は社会主義改造において、主観主義とせっかちがみられる。農民は合作社に強制加入させられるので、集団化

は紙の上でのことになっている。以上の三つはラオスが今日抱えている問題そのものである。

党大会は第2次5カ年計画(1986～90年)を採択した。蓄積率を25%に高め、基本建設投資を第1次計画比57%増とし、年率10%の成長を目指したものである。1990年の食糧生産は85年比40～50%増の200～220万トン、穀は29%増の170～180万トン、1人当り穀生産量を430kgとする。農業生産は、年率9.8%、85年比60%増で、工業は85年比90%、年率14%の増加を見込んでいるが計画達成は困難であろう。第2次計画の最初の年である86年の食糧生産量は149万トン(うち穀111万トン)、合作社数3976と発表された。

●経済改革 ソ連やベトナムでの経済改革に刺激されてラオスでも経済改革が始まった。1986年1月ベトナムでコメコンの経済協力委員会会議が開かれ、ソ連を始めとする各国の国家計画委員長が集まった。その際ソ連のタルイジン国家計画委員長や、東ドイツ、ハンガリーの計画委員長がラオスを訪れ、86～90年国家計画の調整を行ない、今後の協力を約束した。各国とも対ラオス援助の非効率性を指摘し、経済改革を勧告したものである。ソ連共産党第27回大会より帰ったカイソン書記長はまず閣僚に対して、次いで企業長や高中級幹部に対する「新しい経営管理システム」の講習会を組織した。官僚的国家補助型の経営管理方式から新しい経営管理方式へ転換しようというものである。8月初めの閣議は、各経済単位を財政的に独立した社会主義企業に転換させることについての政令を発表した。これから年末までに2段階にわけて経済単位を独立した企業に転換させる。このため各省庁は若干の企業を選んで実験する。10月からは残りの企業を転換させるというものである。

計画どおり経済改革が進行しているとは思われないが、電気、煙草、ビールおよび清涼飲料の代表的企業では、生産性に基づく賃金システムの導入とか、生産計画や運転資金の調達計画の見直しが進められている。

DK=民主カンボジア, CGDK=民主カンボジア連合政府, PRK=カンボジア人民共和国, KPRAF=カンボジア人民共和  
国武装勢力, KPNLF=クメール人民解放戦線, ANS=シアヌーク派民族軍, PPDS=プノンペン国内放送, SPK=  
PRK カンボジア通信, VONADK=民主カンボジア国民軍放送, VODK=民主カンボジア放送, VOK=クメール放送  
(KPNLF と ANS 系), ND=Nhan Dan, QDND=Quan Doi Nhan Dan, BW=Bangkok World, BP=  
Bangkok Post, N=Nation, KPRP=カンボジア人民革命党.

## 1 月

2 日 ▶ANS のラナリト殿下は、BP 紙との会見で、ANS は、国境での戦闘から国内に潜入してゲリラ活動を行なう戦術に転換することになろう、われわれは人民の心をとらえなければならぬ、と語った。国内に潜入している ANS 軍兵士は、7408人に達していると報道されている。

3 日 ▶SPK によると、ブレアビハル省では、1985 年に 117 人が帰順してきた。

▶KPNLF のソンサン議長は、PCCS(Provisional Central Committee of Salvation) による叛乱を終わらせると言明した。KPNLF 軍参謀長 Sak Sutsakhan 将軍を代表とする PCCS は、ソンサン議長が独裁的に権力を行使したこと、ANS との軍事協力を妨害したことを叛乱の理由に挙げている。

5 日 ▶東独の国家計画委代表团(Gerhard Scheurer 副首相兼国家計画委員長) 来訪。チアソト計画相とシュオイラー副首相は1986~90年 PRK・GDR 経済協力の基本方向に関する議定書に調印した。

▶PRK のプータン国防相は、ベトナムの人民軍雑誌 Tap Chi Quan Doi Nhan Dan 1986年1月号に寄稿し、1984~85年乾期攻勢における勝利はカンボジア革命勢力の成熟への重要な一歩であるとその意義を強調した。(1) この攻勢によって国境地域にあった敵の主要な16拠点が粉砕され、敵はカンボジア領内の主要基地を失った。かくしてカンボジア領内に二つの政権が存在するという状況を作ろうとした意図は失敗した。PRK は全土に対する支配権を確立した。(2) 敵兵1万人以上、すなわち敵兵力の20%を戦闘不能にした。(3) PRK の党と政府の行政機構および組織が地方にも広がった。(ハノイ放送5日)

6 日 ▶米国のソアレス議員、カンボジア反越勢力のうちの2派の現況を調査するためバンコクを訪問、タイ高官、ソンサン KPNLF 議長と会談し、キャンプを訪問した。

▶PPDS によると、ブレイベン省人民委員長は、ベトナムの姉妹省ドンタブ省は経済文化社会のあらゆる領域にベトナム人専門家を派遣している。ドンタブ省は10万 ha の土地で17万5000トンの穀を集めるが、ブレイベン省は22万5000ha の土地がありながら、2万トンの米しか買入ることができないと語った。

7 日 ▶ラオスの Pasason 紙は、PRK 7年の実績を紹介した。食糧は自給を達成、1985年は200万トンの穀を収穫し、24万トンの穀が国家に売り渡された。副次作物の植付面積は15万 ha となった。ゴムの生産量は1万3000トンの海産物、豚と牛は400万頭に達している。

▶N紙によると、KPNLF と ANS は4日合同軍事指揮部を設置し、非共産2派の軍事行動を統合的に指揮することになった。最高司令官に Sak 将軍、副司令官に ANS の Teap Ben 将軍、総参謀長に ANS の Toan Chay 将軍、副参謀長に KPNLF の Dr. Gaffar が任命された。

▶プノンペンで第7回国慶節記念集会。ヘンサムリン議長が演説。

8 日 ▶VONADK によると、1月2日カムボト地区のプソンソイで300人のカンボジア人兵士が軍を離脱した。300人のうちカムボト省出身が100人、タケオ省出身が200人であった。

▶PPDS によると、コンボントム省の軍民は過去1週間ベトナム軍と協力して掃討作戦を行ない、反越3派の兵士43人を殺し、14人を捕え、9人を負傷させた。また7人を帰順させた。

11日 ▶シアヌーク殿下は AFP と会見し、抵抗勢力内の分派行動は止めるべきであり、たとえ KPNLF の主席の地位を失ったとしても、ソンサンは民主カンボジア連合政府 (CGDK) の首相であると語った。

13日 ▶ソ連の国家計画委員長タルイジン第一副首相が来訪し、1986~90年のソ連・カンボジアの貿易および経済協力について協議した。

▶ポーランドの国家計画委員長 Manfred Gorywoda 副首相来訪。

14日 ▶チェコ政府代表团 (S. Potac 副首相兼国家計画委員長) 来訪。

▶ラオス人民解放軍代表团 (Somsak Saisongkam 党中央委員、国防次官) 来訪。

▶ハノイで PRK とベトナム間に1986年度経済協力協定が調印された。

17日 ▶ヘンサムリン書記長出席の下に KPRP の第2回中央総会が15日から17日まで開催され、1985年の革命の実績を評価するとともに86年と87年の戦略的任務を決定した。

19日 ▶KPRP 中央委と PRK 政府、ソ連のゴルバチョ

フ書記長の核管理提案(86年1月15日)を支持する声明を発表。

▶VODKによると、シエムレアブに駐屯するPRKのカンボジア人兵士300人が脱走し、家庭に帰った。

21日▶DK 国民軍司令部は、21日声明を発表し、1985年12月の半ばから1986年1月半ばまで、ベトナムは7900人の兵力とT-54型戦車24台をカンボジアに送り込んだと発表した。

23日▶ビエンチャンで第12回定例インドシナ外相会議。グエン・コ・タク外相、フンセン外相、シバースト外相が出席、24日コミュニケ発表。そのなかで、1986年もベトナム軍の撤退を続け、90年までに撤退を完了する、PRKはボルボト一派を排除することを条件に他のグループ、個人との話し合いに入る用意がある、PRKはタイ領内のカンボジア難民の帰国問題を話し合う用意がある、と述べている。

24日▶BP紙は、タイ軍最高司令部からの情報として、ヘンサムリン軍が叛乱を起こしたので、首都プノンペンには1万3000のベトナム軍によって防衛されている。カンボジア人労働者の取扱いをめぐるココン省のヘンサムリン軍第2師団はベトナム軍の339師団に反抗した後、解散させられたと報道した。

25日▶DK 国民軍最高司令部は25日付で、1月19日ブレイベン省 Sithor Kandal 地区でベトナム軍を攻撃し、ベトナム人22人を捕え、30人を殺し、20人を負傷させて、同地区を解放した、プノンペン東方の戦区の軍民を表彰した。

27日▶PRKのフンセン外相はビエンチャンでの記者会見で、ボルボトに反対するわれわれの闘争に加わるならわれわれはシアヌークを常に歓迎する、と語った。

▶VOK、ヘンサムリン軍兵士への公開状で、ベトナム軍339師団に叛乱を起こしたヘンサムリン軍第2師団の兵士は、カンボジア人民に対する計り知れない貴重な貢献をしたと賞讃した。

28日▶カンボジア党代表団(Nguon Nhel 政治局員候補、プノンペン党書記)、キューバ共産党第3回大会に出席のため、プノンペンを出発。

29日▶ハンガリーとの間に1986～90年の保健協力協定を締結。ハンガリー側はカンボジア人専門家を訓練するとともに毎年2人の専門家を派遣する。

## 2月

1日▶ソ連の民間海運省代表団(Trounov Boris Pavlovich 同省次官)来訪。

2日▶SPKによると、1985年にコムボントム省で革命の側に帰順してきたものは871人、うち762人がボルボト

派、109人がソンサン派であった。

3日▶プノンペンで第3回インドシナ通信社社長会議。

4日▶第1期国会第10回会議(～7日)。1986年の国家計画、1984年予算の収支、1985年財政報告、1986年の財政目標、憲法12条の修正の承認。PRK-SRV 国境画定条約の批准、国事統制相に Sin Song 氏を任命、第1期国会の任期を1991年まで延長することを承認、人民最高法廷議長に Khang Sarin 氏を、検事総長に Chan Min 氏を任命した。

7日▶VONADKによると、ココン省 Kraom で200人の同胞が決起し、ベトナム人20人を殺し、6人を負傷させた。

8日▶シアヌーク殿下は、ANSの司令官兼参謀長に Ranarit 殿下を任命。

▶民主カンボジア連合政府(CGDK)、インドシナ外相会議コミュニケに関してアピール。国連総会の関係決議とカンボジア問題国際会議の声明を土台にして、CGDKはベトナムと直接交渉あるいは間接交渉を行なう用意がある。解決には次のものが含まれる——(1)全ての外国軍の撤退、(2)国連監視委員会の設置、(3)民族和解、(4)国連監視下での選挙と政府の樹立、カンボジア人民が自由、統一、民族独立を再び手に入れた時カンボジア民族解放政府は、ベトナムと平和、非侵略、友好、協力の協定に調印する。

▶VODKによると、DK 国民軍コンボンスプーのベトナム軍訓練センターを攻撃、ベトナム軍兵士145人を殺し、155人を負傷させた。同胞550人が帰郷した。

11日▶SPKによると、1月の帰順者は全国で585人で、うち旅団長、大隊長と9人の中隊長が含まれていた。携行してきた武器36丁。

12日▶PRK-USSR 技術研究所で第1回研修生85人が卒業。建設30人、電気29人、農業水利26人。

▶DK、シアヌーク殿下と民族統一戦線の現在および将来について声明。(1)DKはシアヌーク殿下を現在もベトナム軍撤退後もカンボジアの大統領とみなす、(2)DKは独立、中立、平和、協同の民族統一戦線が現在も将来も国民大団結の下で他と共同して、祖国を防衛し建設する任務を遂行する政治勢力であると考え。DK代表キューサンパンとDK 国民軍最高指揮官フンセンが署名。

▶VODK、DK 国民軍ポチェントン空港を3方面から攻撃。ベトナム軍兵士23人を殺し、31人を負傷させた。

16日▶ANS 軍80人は、シエムレアブ省 Varin 地区 Prasat 村と Kouk Dong 村のベトナム軍中隊を攻撃し、ベトナム側2人を負傷させた。ANS 軍も2人負傷した。

17日▶プノンペンで、PRK-SRV 友好協力条約締結7周年記念式典。ベトナムからチュ・フィ・マン政治局員



が出席。

19日 ▶AFP、ヘンサムリン政権は、CGDKのゲリラに抵抗するために各村落に民兵を組織しつつあると報道。

▶KPNLFのソンサン議長は、最高指揮官 Sak Sutsakhan 将軍、参謀長 Dien Del 将軍を解任したと発表した。Porom Vith 将軍を4人から成る KPNLF 指揮委員会の委員長に任命した。

20日 ▶VONADKによると、コンボンスプー西方の訓練センター防衛のために派遣されたヘンサムリン軍の一連隊が決起し、ベトナム軍兵士14人を殺し、多くを負傷させた。

21日 ▶KPRP 高級代表団(ヘンサムリン書記長、メンサムアン政治局員兼組織委員会委員長)、ソ連共産党27回大会に出席のためモスクワへ出発。

26日 ▶DK 国民軍最高司令部は、2月8日のコンボンスプー西方のベトナム軍訓練センターを攻撃し、多大の戦果を挙げたブノンベン戦区の幹部、兵士、人民に祝意を表明した。

27日 ▶DK 国民軍最高司令部は、2月12日のポチエントン空港攻撃とその戦果を賞讃。

28日 ▶SPK、シエムレアプ・オダルメアンチャイ省では、1986年1月だけで敵の宣伝に迷わされていた分子215人が帰順した。

### 3月

1日 ▶SPK、クメール・ルーージュのポチエントン空港攻撃の発表は作り話にすぎないと論評。

2日 ▶VODK、ベトナム人によって設置された村落行政機構を解体させることは、彼らのカンボジア支配を根底からくずすものであると強調。

3日 ▶DK 国民軍は、ブノンベン西方47kmのコンボンスプーの町を7方面から攻撃し、ベトナム軍兵士105人を殺し、150人を負傷させた(VONADK, 3/7)。

4日 ▶VODK、バタムバン地域は今乾期(8年目)の最も激烈な戦場になった、この地域におけるDK軍の攻撃は戦略的意味を持っている、と論評。

5日 ▶CGDKのThiounn Thioeun 保健相は、ベトナム軍が有毒化学物質を使用したと非難する声明を発表。2月27日バタムバン省ソソボン地区でベトナム人は水に毒を入れたため、179人の戦士が影響を受けた。パイリン地区では80人が影響を受け、20人が死んだ。

▶フンセン首相、来訪中のオーストラリア議会代表団(Richard Charlesworth 議員)と会見。

6日 ▶N紙によると、ベトナムはカンボジア市民をゲリラから引離すために5号道路、6号道路、69号道路沿いに戦略村を設置する計画を進めている。

8日 ▶VONADKによると、DK 国民軍はコムポントムを攻撃し、周辺の Kon Tnaot 村や Balang 村など40村の行政機構を解体した。7方面からの攻撃でベトナム人兵士215人を殺し、142人を負傷させた。

12日 ▶CGDK 政府、声明を発表し、SRV と PRK との間に1985年12月27日結ばれた国境画定条約は無効であると言明。

13日 ▶シエムレアプ・オダルメアンチャイ省で、ソ連の援助で建てられた発電所の完成式。

14日 ▶N紙、ベトナムは昨年12月、ブルサト省で、ベトナム軍に反抗したヘンサムリン軍の一師団を再編した。

15日 ▶VOKによると、コンボンチャム省コンボンシエム地区でPRK 軍とベトナム軍が2月26日に衝突し、ベトナム軍兵士12人が死亡し、23人が負傷した。ヘンサムリン軍側は死者6人、負傷3人であった。原因はベトナム人がカンボジアの産物を本国に送るのを阻止したこと、ベトナム軍がキロ当たり2.5<sup>2</sup>で米を売るよう強制したのを止めようとしたことであった。

16日 ▶KPNLFの情報部によると、ベトナムはブノンベン政権を指導するために「インドシナ政策局」なる監督機関を設置している。

17日 ▶CGDKの8項目提案。シアヌーク大統領は北京での閣議の後、カンボジア問題の政治解決のための提案を発表。要約すると、(1)ベトナム軍の撤退は期限付の場合2段階に分けて実施される、(2)撤退手続きに合意したら停戦を実現する、(3)撤退も停戦も国連監視チームによって監視される、(4)撤退の第一段階が終わったら、ヘンサムリンググループはCGDKとの話し合いに入る、その場合4者は平等の立場で話し合う、(5)4派連合政府は国連監視下の自由選挙を行なう、(6)カンブチアの自由民主体制と中立は国連によって保障される、(7)国家再建のために東西中立のあらゆる諸国からの援助を受け入れる、(8)中立非同盟のカンボジアは、ベトナムと不可侵条約を結ぶとともに貿易や経済関係を樹立する。

▶PRKのフンセン首相、Koy Buntha 国防次官兼総参謀長とともに、かつてソンサン・グループの基地であったエアダンギムを視察し、タイが敵対政策をとっている、われわれはこの防衛線を築かねばならないと兵士を激励した。

18日 ▶カンボジア国際会議を組織するための日本人委員会の代表団一行12人は、18日からDK 国民軍・基地を訪問し、DK 赤十字議長イエンチリト女史と会見した。

19日 ▶VONADK、3月1日ソソボン南方 Ta Khiev に駐屯するカンボジア人兵士1個中隊が叛乱を起こし、ベトナム軍兵士27人を殺した。

▶チェコとの間に1986~90年の商品交換についての協

定と、合同プロジェクトに対するチェコの借款供与に関する協定が調印された。

21日 ▶DK 国民軍は、コムボンチュナンの Phsa Kra-om ベトナム海軍基地を攻撃、ベトナム軍兵士28人を殺し、16人を負傷させた (VODK)。

24日 ▶『プラチエアチョン』紙、CGDK の8項目提案を「北京で仕組まれた新たな茶番」と論評。

26日 ▶VOK との会見でソンサン首相は、8項目提案に関して、ベトナム側が提案はボルボトの復帰を意味する、と主張したことに対し、私の聞いたところでは、ボルボトはベトナムが撤退に同意すれば引退することを約束したと答えた。

▶PRK は、ポーランドとの間に1986~90年の貿易協定を締結した。

▶VOK によると、3月8日コムボンチュナンの空港で、100人のヘンサムリン軍とベトナム軍が衝突し、ベトナム軍18人が殺され、50人が負傷した。ヘンサムリン軍側は3人が死亡、14人が負傷した。

▶CGDK 国防相会議。CGDK 3派の国防相はソンサン首相の下に会議を開き、軍事行動調整委員会と渉外委員会の設立について合意した。

27日 ▶シエムレアプ・オダルメアンチャイ省の1985年の帰順者は2000人を超えた。うちボルボト派1385人、ソンサン派589人、彼らは1100丁の武器を携行してきた。同省の転向促進会議にフンセン首相が出席した。

▶ブノンペンで郵便・運輸・通信省会議が開かれ、過去の活動を総括するとともに1986年の任務を検討した。85年の物資運搬量は41万440トンで計画を3%超過、対前年比12%増であった。ブノンペンとコムボンソムの2船舶会社は計画を14%超過した。187kmの道路を修復し、橋を2088にわたって修理した。

## 4 月

2日 ▶CGDK のキューサンバン副大統領は、ASEAN 高官会議に8項目提案を説明するためにマニラに到着。

4日 ▶KPNLF 軍参謀部は、3月28日のバタムバン市内のベトナム軍陣地に対する DK 軍の攻撃に KPNLF 軍からも2個中隊と1特別攻撃隊が参加した、と発表した。また同軍は3月25日の ANS 軍によるベトナム軍攻撃にも参加した、と発表。

5日 ▶ブノンペンで開かれた第7回全国農業総括会議でフンセン首相が演説し、食糧、ゴム、木材、海産物の4製品の増産に励むよう訴えた。とくに米については作付面積を300万 ha (戦前レベル)に拡大しなければならない、と述べた。

6日 ▶キューサンバン副大統領はバンコク空港で記者

会見し、カンボジア問題の解決に際しては各派は武装解除ではなく停戦するだけである、ベトナムは過去の経験から信用できないからである、と語った。

7日 ▶Ney Pena 政治局員兼内相、ブルガリアの第13回党大会に出席。

▶PRK 閣僚会議、帰順者に対する報奨金を倍に増額することを決定。1986年4月10日から86年5月15日まで、個人であると部隊単位であると問わず革命の側に武器を携行してきた帰順者に対しては、85年3月30日付の国防省、内務省、財政省の3省メモに規定されている金額の倍額を与える。ただし1986年5月16日以降の帰順者に対しては規定どおり。

8日 ▶VONADK によれば、ココン地域の戦場で130人のカンボジア人兵士がベトナム軍に叛乱を起こした。1月から4月初めまでに1345人のカンボジア人兵士と人民がベトナムに叛旗をひるがえした。

9日 ▶キューバの司法大臣来訪。

12日 ▶東京で「カムプチア・デー」集会、8項目和平案を受け入れるよう要求した決議を採択。

13日 ▶PRK 国家評議会のヘンサムリン議長、新年のメッセージ。議長は、敵は致命的打撃を受け解体しつつあるが、われわれの力を弱らしていけばわれわれの政権を転覆できるという幻想を捨ててはいない。わが軍と同胞は敵と一段と激しく闘わねばならない。また敵に従っている者は家族のもとへ帰るよう帰順を呼びかける、と訴えた。

▶CGDK 外務省は声明を発表し、ベトナムが本当にカンボジア問題を政治的に解決することを望むなら、8項目和平案を基礎に CGDK と話し合わなければならない、と述べた。

14日 ▶VONADK によると、シソボン南部の Ampil 村で、ヘンサムリン軍の兵士100人がベトナム軍に叛乱を起こし、強制労働に狩り出された民間人500人を釈放した。

16日 ▶DK 国民軍は、ポチェントン国際空港を3方面から攻撃し、ベトナム人34人を殺し、52人を負傷させた。この攻撃でソビエトの爆撃機4機も破壊した (VONADK)。

▶DK 国慶節に際して北朝鮮の金日成主席、シアヌーク大統領に祝辞。

▶北朝鮮の金永南外相、カンボジアの国慶節に当り、キューサンバン DK 副大統領に祝電。独立、平和、中立、非同盟のカンボジアを建設するための戦いにおいて新しいより大きな勝利を望む、と言明。

▶中国の李先念国家主席、趙紫陽首相は民主カンボジアの国慶節に当り祝電。8項目和平案を支持する、と

言明。

17日 ▶ANS 最高司令部は同軍が DK 国民軍の協力を得て、4月9日と11日にシエムレアブ省の Kralanh 県 Prey Chhruk と Puok 県 Angkor Pheas 郡 Chakrei でベトナム軍を攻撃し、ベトナム兵士100人を殺し、130人を負傷させた、と発表した(VOK)。

21日 ▶SPK によると、1986年の初めの3カ月間に、敵の宣伝に欺かれていた人民1299人が732丁の銃および多量の弾薬を持って革命の側に帰順してきた。帰順者のうち65%がボルボト派、20%がソンサン派、残りがシアヌーク派であった。

▶ベトナム国会代表団(グエンフート国会議長)、公式訪問のためプノンペン到着。

22日 ▶ハンガリーの国家計画庁代表団(Gyorgy Doro 副議長)来訪。

▶ソ連の国家対外経済関係委員会の代表団(Nikita Pavlovich Tulupov 副議長)来訪。

▶PPDS によると、コンボントムの武装勢力はベトナム軍と協力して掃討作戦を行ない、敵兵100人を殺し、53人を負傷させた。

26日 ▶タンサロム対外経済・文化協力相は、ソ連の対外関係委員会のソニベフ副議長と1986～90年ソ連・カンボジア経済、文化、科学、技術協力協定に調印した。

28日 ▶ASEAN 外相会議は、CGDK の8項目提案を支持するとともに、ベトナムがこの提案に積極的に答えるよう要請する共同声明を発表した。

29日 ▶DK 国民軍は、4方面からシエムレアブ市にあるベトナム軍の戦略拠点を攻撃し、ベトナム兵22人を殺し、30人を負傷させた(VONADK)。

## 5月

1日 ▶プノンペンでメーデー集会、チアシム国会議長が演説。

3日 ▶DK 国民軍は、シエムレアブ省 Sot Nikom 地区 Rolus 町のベトナム軍を攻撃し、Meanchey 郷と12の村を解放した(VONADK)。

7日 ▶VODK、米国とASEANが採択した3項目提案を支持すると論評。3項目とは、(1)カンボジアから撤兵するまでベトナムを政治的外交的に孤立させる、(2)カンボジアの抵抗勢力にあらゆる支援を与える。(3)ASEANが提唱した原則に従ってカンボジア問題の政治解決を求める。

8日 ▶PPDS によると、PRK 軍は4月1カ月間で195の掃討作戦を行ない、1188人を戦闘不能にした。3月の2.5倍。

13日 ▶VODK、「8年目の今乾期にバイリン地域を平

定しようとしたベトナム軍の攻撃は失敗に終わった」と論評。

14日 ▶SPK によれば、4月のPRKへの帰順者は411人であった。

17日 ▶KPRP 中央委、3月29日のゴルバチョフ演説および1986年4月23日のソ連政府声明を支持するメッセージを、ソ連党中央委に送付。

▶DK 国民軍最高指揮部は、バイリン地区のDK 国民軍がベトナム軍の進攻をくい止めたことを表彰した。

18日 ▶プノンペンの党および人民委員会は、タイ・カンボジア国境での陣地構築などの土木工事に従事していた労働者第5次作業団が、プノンペンに帰還したのを祝う集会を開催した。

20日 ▶Tuol Sleng 博物館で、ボルボト=イエンサリ=キューサンバン一味に対するカンボジア人民の憎しみを表明する11回目の記念集会が開催され、ヘンサムリン議長、チアシム国会議長ら首脳が出席した。

▶ANS 軍筋によると、ANS 軍はバタムバン省、Preah Net Preach 地区ブレシアヌーク村近くでの4日間にわたる戦闘で、ベトナム人兵士80人を殺した。

▶VODK、ストックホルムでのベトナム Tran Quynh 副首相の発言で、1990年までに全面撤退するという同国の宣伝が嘘であることが暴露された、と論評。

21日 ▶PRK 国防省は、ベトナム義勇軍のカンボジアからの撤退を発表。撤退するのは第8歩兵師団、95歩兵旅団、第37歩兵連隊とその付属部隊から成る第98師団グループら約1万2000。

▶DK 国民軍スポークスマンは声明を発表し、ベトナム軍がタイニンから22号道路を通してトラック80台分の兵力を、ソンベから13号道路を通してトラック50台分の兵力を、カンボジアのコムボンチャム省やクラチエ省に増強したと述べた。

22日 ▶PRK 軍機関紙 Kangivap Padevoat 社説は、今回のベトナム軍の撤退について、「1984～85年乾期攻勢で、わが軍およびベトナム軍は国境沿いにある16の敵拠点を占領し、カンボジア・タイ国境地帯を掌握した。懲罰を逃れ国内に残存している分子もわが軍に少しづつせん滅されている。このような有利な条件が撤退を可能にしたのである」と述べた。

25日 ▶ベトナム軍は、バタムバン省バンニミットの東にヘリコプター基地を建設した(BP紙)。

27日 ▶『プラチエアチョン』紙社説「撤退はPRKとSRVの善意のもう一つの証拠である」。このなかで、撤退はカンボジア武装勢力の成長によるものであり、敵側が弱ってきたことによる。タイ国境の17拠点を失い、敵は国内に潜入してきている、しかし彼らの移動は困難に

なっている。1985年の乾期に比して今年は帰順者が2倍になっていると述べた。

28日 ▶CGDK のソンサン首相は、ベトナム軍の撤退は単なる入れ替えにすぎない、KPNLF は国内に8000～9000人のゲリラをいれている。われわれは世界の国々にカンボジアから手を引くまではベトナムの経済再建を助けないよう要請していると語った (VOK)。

▶ソンサン首相の司会で CGDK の3派国防相会議開催。ベトナム軍の撤退は単なるローテーションの一部にすぎない、1986年4月に軍事と渉外の調整委員会を設置したことは CGDK の戦闘行動を活発にしていると評価した。

29日 ▶PRK 軍は、過去1週間に敵兵183人を戦闘不能にした。88人を殺し、24人を捕え、71人を帰順させた (PRDS)。

30日 ▶BP 紙、シアヌーク大統領は「ベトナム軍が撤退すれば、私とソンサンは紙の上だけの指導者になるだろう。なぜならクメール・ルージュはカンボジアの本当の主人公になるからである」と語った。

▶DK 外務省声明、5月29日ベトナム軍が、タイのブラチンブリ県の Ta Ngoc カンボジア難民キャンプ Site 8を砲撃したことを非難。砲撃で20人が死亡、30人が負傷した。

## 6月

3日 ▶CGDK のキューサンパン副大統領は、エジプト、ケニア、ルワンダ、ブルキナファソ、セネガル、リベリア、ギニアを訪問して帰国した。

10日 ▶オーストラリアのハイデン外相はバンコクで記者会見し、CGDK の8項目提案は完全なものではないが話し合いのきっかけになると思われるので、ベトナムは再考すべきであると述べた。

▶シエムレアブ・オダルメアンチャイ省では、5月中旬に300人が帰順してきた (PPDS)。

▶PRK のフンセン首相は『ユマニテ』紙の記者と会見し、ベトナム軍の3分の1以上がすでに撤退した、1990年にはカンボジア問題は3派や ASEAN と話し合わなくても解決されるであろう、政治解決を望むなら話し合いを1986年と88年の間に始めなければ間に合わない、シアヌークの CGDK とは話し合わない、事実上ボルボトの支配下にあるからである、タイ軍が侵略するのでタイとの国境に700kmの防衛線を建設中である、と語った。

12日 ▶ベトナムの国家統制委員会代表団 (Bui Quang Tao 中央委員兼国家統制委議長) 来訪。

13日 ▶N紙によると、タイ国家安全保障会議のブラソ

ン事務局長は、現在2万5000の難民を収容しているカオイダンのキャンプは、年末に閉鎖されるであろう、第三国への入国を拒否されたものは国境沿いのキャンプに移されることになろう、と語った。タイのインドシナ難民は12万3649人。

14日 ▶PRK の武装勢力 (KPRAF) 総政治局、KPRAF 創立35周年記念日 (1951年6月19日) の祝賀に向けて指示を発表。

15日 ▶6月10日、DK 国民軍は他の勢力と協同して4方面からアンコールワット地区のベトナム軍を攻撃し、25村を解放するとともにベトナム軍兵士35人を殺し、52人を負傷させた (VONADK)。

16日 ▶キューバの軍事代表団 (Aldo Santamaria 国防次官)、KPRAF 35周年記念式典に出席するため来訪。

17日 ▶KPRAF の35周年式典に出席するためソ連国防省代表団 (N. I. Smirnov 海軍副司令官) 到着。

18日 ▶KPRAF の35周年式典に出席のため、SRV 高級軍事代表団 (Van Tien Dung 国防相) と LPDR の高級軍事代表団 (Khamtai Siphandon 国防相) が到着。

19日 ▶ブノンベンで KPRAF 創立35周年記念式典。ヘンサムリン議長演説。

▶KPRP の組織委員会代表団 (Mrs. Men Sam An 政治局員、組織委員会委員長)、ベトナムでの2週間の活動を終えて帰国。

21日 ▶VODK 「CGDK 樹立4周年を祝って」を発表。

24日 ▶マニラで開かれていた ASEAN 外相会議はカンボジア問題について、CGDK の8項目提案は話し合いのための建設的枠組みを提供しているとし、平和的解決のためにベトナムが CGDK と親しく話し合うよう訴えた。

26日 ▶KPRP 代表団 (Mat Ly 政治局員)、ポーランドの党大会に出席するために出発。

▶マニラで開かれた ASEAN 外相と先進国外相の協議会で、オーストラリアのハイデン外相は、カンボジア人の和解とベトナムとの対話のために、ボルボトおよび他のクメール・ルージュ指導者を裁くための法廷を設置するよう提案した。

▶PRK 帰順工作委员会 (委員長 Bou Thang 政治局員、委員11人、1984年設立) によると、1986年の最初の5か月間の帰順者は2038人に達した。うちボルボト派65%、ソンサン派20%、シアヌーク派15%、この数字は1985年の半分を越している。帰順者は1237点の武器を携行してきた (SPK)。

27日 ▶BP 紙、撤退の一方で5月中旬に新たに1万3000のベトナム兵士がカンボジアに送り込まれた。国家安全保障会議ブラソ事務局長26日語る。

28日 ▶ヘンサムリン議長、KPRP 創立35周年記念集

会で演説し、インドシナ共産党(ICP)のカンブチア担当委員会は会議を召集し、カンブチアに KPRP と呼ぶ党を創ることを決定した、それが今日である。ポルポト反動派はマルクス・レーニン主義教育を充分に行なえなかったことを利用して、指導権を奪い、毛沢東主義を党生活に持込んだ。1979年1月7日以来、党は ICP の伝統に従って再建されている、と語った。

▶ND 社説。カンボジア革命の進展を紹介、1985年の工・手工業生産額は80年の3倍になり、国内消費・生産の需要を満たし、輸出もしている。土地は全人民の所有となり、耕地の3分の2が復旧された。10万の互助組が農業生産に従事し、1985年には全国で200万トンの近い穀を収穫した。

▶コムボントム省当局は、今乾期に414人の帰順者があったと発表した。

## 7月

2日 ▶タイのプラソン NSC 事務局長によると、タイとの国境封鎖と抵抗勢力の圧殺を目的とした、ベトナムの暗号名 K-5 計画は成功しなかった。抵抗勢力の現況は総勢7万で、うち KPNLF が1万2000、クメール・ルージュが5万1000、ANS が8000である。ベトナム軍は14万だが、うち戦闘部隊は10万である。ハノイは1985年末までに、治安維持の責任をヘンサムリン軍に移したいと望んでいたが、90年までへと延期せざるをえなかった(N紙)。

3日 ▶中国共産党の胡耀邦総書記はシアヌーク CGDK 大統領のために宴会を開き、CGDK の8項目提案への支持を表明した。

6日 ▶DK 国民軍は6月29日、バタムバンからブノンペン行きの列車を攻撃し、ベトナム人兵31人を殺し、37人を負傷させた(VONADK)。

10日 ▶PRK の党と政府は、ベトナムのレ・ズアン書記長の死に際して7月11日から15日まで、全国が喪に服するよう指令した。

13日 ▶党と政府の代表団(ヘンサムリン書記長)、レ・ズアン書記長の葬儀に出席のためハノイへ出発。同行者は、Say Phuthang 国家評議会副議長、Chea Soth 副首相、Yos Son 党対外連絡委副主任。

15日 ▶DK 軍ゲリラは、ブノンペンのキリロム映画館の西側でベトナム軍兵士と要員を手投げ弾で攻撃し、12人を死亡、4人を負傷させた。このためブノンペンの夜間通行は7月18日まで禁止された(VONADK)。

16日 ▶ブノンペンでインドシナ3国の経済文化協力に関する第7回会議開催。カンボジアから Peng Pat 経済・文化協力省次官、ベトナムから Tran Quoc Manh,

インドシナ経済文化協力委副議長、ラオスから Soulima Bounleut 計画委副議長が団長として出席した。

17日 ▶KPRP 第5期中央委第3回総会(7月10日から16日まで開催)のコミュニケ発表。1985~86年の乾期の成果を検討し、86年後半の目標を承認した。

▶ヘンサムリン書記長、ハノイでソ連の N.I. ルイシコフ首相と会談。

19日 ▶CGDK 外務省、1986年7月18日インドシナ3国が結んだ経済文化協力協定は、完全に無効であるとの声明を発表。

21日 ▶第1期国会第11回会議開催。21日は、1986年前半期の経済計画実施状況および後半期の任務を審議するとともに、予算案の修正を決定した。22日は、外交、防衛ライン構築、帰順工作についての報告を審議。

22日 ▶『プラチエアチョン』紙、「全員を動員して早ばつの危険と戦って雨期用の水田全部で田植を終わらせよう」という社説を掲げる。

24日 ▶米国のインドシナ3国人民との連帯委員会代表団(Merle Ratner 共同議長)は、1週間の滞在の後ブノンペンを出発。

25日 ▶内閣改造。第1国会第11回会議は1986年の国家予算と新閣僚の任命を承認して閉幕、新任閣僚は以下のとおり。Ney Pena 内相、Say Chhum 農相、Chhay Than 蔵相、Kong Sam-ol 農業担当相、Ho Non 貿易相、Sam Sarit ゴム園総局長。

28日 ▶Kong Sam-ol 農業担当相は記者会見して、本年前半の稲作は降雨量が少ないこと、メコンの水位が下るのが遅かったために計画の80%しか達成できなかった、農民がこの雨期に植付計画を100%完遂したとしても、カンボジアは年末までに1カ月ないし1カ月半の間、食糧不足に直面することになる、PRK 政府はこのため世界の国際機関や人道的援助組織および国家に緊急援助を要請すると語った。

29日 ▶VODK は、DK 軍の7月10日、14日、15日のブノンペン周辺の攻撃を挙げて、これらの攻撃はヘンサムリン政権が全土を支配し、カンボジア情勢は後戻りできないというベトナムの宣伝が虚偽であることを暴露しているとともに、彼らがブノンペンの防衛のために兵力を集中するので、他の地域の防衛が手薄になることを意味していると論評した。

▶『プラチエアチョン』紙社説は今雨期に敵を攻撃し、より多くの重大な敗北を与えようと訴えた。それによると、敵はカンボジア内部で活動することを余儀なくされ、兵の補充、物資弾薬の補給を絶たれている。しかも現実の民衆の生活をみることができると帰順者も多い。

▶ニカラグアのサンデニスタ民族解放戦線(FSLN)と

政府の代表団 (Henry Ruiz, FSLN 指導部メンバー・対外協力相) 来訪。

## 8 月

2日 ▶シアヌーク CGDK 大統領は、ジンバブエのムガベ首相・非同盟運動議長に手紙を送り、1979年、ハバナの会議で行なわれたカンボジアの議席を空席にするという決定を、否決するよう訴えた。

4日 ▶シンガポールを訪問中の CGDK のシアヌーク大統領は、ダナバラン外相と会談し、民主カンボジアの8項目提案を討議した。両者は同提案にはカンボジア各派の武装解除や国際平和維持軍の創設など、多くの付け加えるべき事項があるということに同意した。シアヌーク殿下は、国際社会により受け入れ易いようにこれらの点を、クメール・ルージュに同意させるよう努力するつもりであると語った。

6日 ▶N紙によると、8月5日ヘンサムリン政権の兵士20人が、国境を越えてタイ軍に降伏した。理由は、カンボジア抵抗勢力とのつながりがあると、ベトナム軍に疑われたためであるという。

10日 ▶CGDKのシアヌーク大統領はタイ国境のオダルメアンチャイ省の移動ゲリラ基地に帰る。記者会見席上、中国の胡耀邦総書記が、ベトナム軍が撤退すれば、クメール・ルージュ軍の兵力を他の2派と同レベルに削減するよう彼らに示唆した、と語ったと述べた。同席していたキューサンバン副大統領は、その提案を考えたことがないと語った。シアヌーク大統領は同派の基地で初めて、マレーシアの Bakri Aiyub Ghazzali 大使の信任状を受けた。また同式典には KPNLF 代表も初めて出席した。

11日 ▶地方武装勢力の幹部のための訓練コースが、高級党幹部学校で Bou Thang 国防相の下に開設された。

▶フンセン首相は、ベトナムのファムバンドン首相に、7月22日の風水害でハイフォン省とランソン省で堤防が決壊したり、冠水したり、多数の被害が出たことについて見舞いのメッセージを送った。

14日 ▶CGDK は本年2回目の閣議を開催、コミュニケを発表。要旨——(1)抵抗勢力はブノンペン、パタムバン、ムアン、ブルサト、シエムレアブ、コムポントムなどの都市でベトナム軍を攻撃しつつある。(2)抵抗3派が協力しているのをみてヘンサムリン政権側の兵士や人民は、ゲリラを助けるようになっていく。(3)8項目提案はベトナム軍撤退後も国家の憲章となる。ヘンサムリン側も国造りに参加できる。

17日 ▶ハノイで第13回インドシナ3国外相会議。フンセン外相、シバースト外相、グエンコタク外相が出席。

18日 ▶PRK 国会高級代表団 (Chea Sim 国会議長)、

ソ連、ポーランド、東独訪問の旅へ出発。

▶VONADK 18日によると、8月10日 DK 国民軍は、モンドリキリ戦線でベトナム軍連隊基地を攻撃し、15人を殺し、17人を負傷させた。

▶VODK、シアヌーク CGDK 大統領は15日バンコクでの記者会見で、8項目提案は CGDK の最後の提案で付け加えるものは何もないと語った。

19日 ▶CGDK 外務省は声明を発表し、ゴルバチョフ書記長のウラジオストク演説には何ら新味はなく、ソ連がベトナムのカンボジア侵略を支持しているかぎり、そのアジア・太平洋地域における侵略と拡張の戦略を捨てたと誰も信ずることはできない、カンボジア問題の解決はベトナムと CGDK の協議および8項目を基礎にしてこそ可能である、と論評した。

20日 ▶インドシナ外相会議を終えたフンセン外相は、われわれはボルボト一派排除を基礎に、国民和解のために他のクメール人反対派もしくは個人との話し合いに入る用意があると語った。ボルボト一派とは個人なのか組織を含むのか、の質問に対しては、「政治的軍事的組織である」と答えた。

▶CGDK 外務省は声明を発表し、ベトナムはカンボジアからの撤退を宣伝しているが、事実は兵を増強し、ベトナム人入植者は70万以上に達している。CGDK の立場は1986年8月14日の閣議声明に述べてあるとおりで、カンボジア問題の解決はベトナムが1986年3月17日の8項目提案を受け入れることであると述べた。

22日 ▶CGDK のシアヌーク大統領、マレーシアを訪問、8項目提案について説明した。

23日 ▶PRK 外務省の招きでソ連外務省の I・ロガチョフ外務次官は、21日から23日までカンボジアを訪問した。

24日 ▶UNICEF の代表団 (James P. Grant 理事) は、3日間にわたってカンダル省のプロジェクトを見学。

27日 ▶シアヌーク殿下によると、クメール・ルージュはシアヌーク軍を攻撃し、9人を殺した。

## 9 月

2日 ▶フンセン外相は、国連事務総長から派遣された Dr. T. Kunugi と会見。

▶『プラチエアチオン』紙は社説で、モンスーンの終わりに田植えを終わらせよう、と訴えた。8月14日までに水不足のため植付けは計画の43%、移植は25%しかできなかった。早ばつで苦しんだうえにモンスーンの大雨で、洪水の被害が広がっている。パタムバンとタケオ省が打撃を受けている。

4日 ▶VOK、シアヌーク大統領のインタビューを放送。

国内の同胞に対して民族主義的戦士を助けるように、ヘンサムリン政権を脱走してくる兵士や公務員は歓迎する、ベトナム軍に蜂起するようなことはしてはならない、決して自分自身および家族の安全を危険にしてはならない。ベトナム軍の撤退が始まると同時に国際平和維持軍の派遣を要請する。彼らには少なくとも5年間は駐留して貰う。ヘンサムリン氏やフンセン氏に対してわれわれカンボジア人同士で4派会議を開き、4派連合政府を樹立しようではないか、と訴えた。

6日 ▶コムボン・チュナン戦線では、DK 国民軍はブノンベンからバタムバンへ向かう列車を、ロレア・ピール県のKdol 駅とKrang Skea 駅の間で待伏せ攻撃し、ベトナム軍兵士17人を殺し、41人を負傷させた(VONADK)。

9日 ▶ヘンサムリン議長、モスクワ到着。

▶DK 国民軍は地方住民と協力して、コムボントムにあるベトナム軍7701師団の司令部を2方面から攻撃した。30分の戦闘の後、ベトナム軍兵士6人を殺し、13人を負傷させた(VONADK)。

10日 ▶『プラチエアチョン』紙は、中国の胡耀邦書記が、ボルボト軍の兵力をシアヌーク派軍なみに3万5000から1万5000に減らすことに同意する、と言ったこと、またシアヌークがカンボジアに平和維持軍を受け入れ、各派は武装解除すると付け加えたのは、中国が舞台まわしをしているトリックにすぎないと論評した。

▶DK の高級代表団(シアヌーク殿下、ソンサン首相、キューサンバン副大統領)の中国訪問終わる。鄧小平顧問はDK 代表団との会見で、「民主カンブチア連合政府の三つの愛国勢力への中国の支援は、確固とした、無条件かつ永久のものである」と述べた。

11日 ▶ブノムマライ山付近で、ベトナム軍とクメール・ルージュとの間に激戦があり、ベトナム軍兵士7人が死亡(AFP)。

17日 ▶フンセン首相兼外相は、国連事務総長と41回総会議長にメッセージを送り、ボルボト一味を議席から追放するよう要求した。

18日 ▶ブルガリア共産党対外政策・関係局代表団来訪。

21日 ▶『プラチエアチョン』紙、生産と人民の生活によりよく奉仕するために社会主義商業網をより広範囲に拡大しようとの社説を掲げた。物資の管理がしっかりしていないので、役人は商人から賄賂をとり、国家の財産を自由市場に横流ししている。このため物価の高騰を招いていると論評した。

24日 ▶9月13日、カムボト省 Kampot 県、Veal Vong の陣地でカンボジア人兵士64人が叛乱を起こし、ベトナム軍兵士を殺し、一部は自宅に帰り、他はDK 国民軍に

加わった(VONADK)。

▶SPK は、タイ軍スポークスマンが、タイ軍がブリラム県省内2km にある丘の上に駐屯していた50人のベトナム軍兵士を撃退した、と語ったが、それは自らの敵対政策をかくすための作り話にすぎないと放送した。

25日 ▶KPRLF のゲリラはカンボジアと南ベトナムとの国境の町 Kong Tum の Touey Chu Ma で米兵3人の遺骨を認識票とともに発見したと語った。認識票は、Bynum J. Ronall US 5589740 と Bon Edwin W 259726345 ANEC PROT, R. Th. rich RDL 27750 O. Pos Cjh.

26日 ▶PRK の軍機関誌 *Kangtvap Padevoat* 社説。敵は重大な敗北を喫したにもかかわらず、北京やタイの援助を得て、あらゆる邪悪な手段を弄してわれわれに反対している。彼らは平和、中立、国民和解などを主張することによってわが軍民をだまそうとしている。われわれは兵士に対する政治教育を強化しなければならない。

27日 ▶『プラチエアチョン』紙、田植を急いで雨期作の計画を実現するよう社説で訴える。9月半ばで田植は計画の54%しか進捗していない。

28日 ▶第41回国連総会に出席中のASEAN 各国外相は、CGDK 大統領シアヌーク殿下のためのパーティを開いた。キューサンバン副大統領、ソンサン首相も出席した。

▶VODK、国連でのソ連外相演説を非難。

▶CGDK の3首脳、中国首脳に国慶節の祝電。

▶DK 国民軍は9月20日、シエムレアプ市のベトナム軍師団司令部を攻撃、ベトナム兵10人を殺し、7人を負傷させた(VONADK)。

▶SPK、バタムバン省 Ampil 北西でPRK 軍は、侵入してきたタイ軍機 F5 一機を撃墜した。

29日 ▶DK 軍は4号道路を通して、コムボンソム港からブノンベンへ物資と人員を輸送しているベトナム軍輸送隊を、コムボンスプー省 Phnum Sruoch 地区近くで襲撃し、11人を殺し、17人を負傷させた(VONADK 10/6)。

30日 ▶ブノンベンでハンガリーとの間に1986~90年の文化、科学、技術協力協定が締結された。

▶DK 国民軍最高司令部は、1986年5~9月の雨期の戦闘結果を総括。ベトナム兵1万300人を殺し、2050の村を解放したと発表した。

▶CGDK のシアヌーク大統領、国連総会で演説、カンボジアの戦争は内戦ではなくベトナムの侵略戦争である、と述べ、8項目提案をベトナムが再考するよう求めた。

## 10月

3日 ▶KPRLF ゲリラに随行していたオーストラリア

人記者 David Nason がベトナム軍との交戦で負傷。

▶第5回ブノンペン仏教僧会議、ブノンペンおよびカンダル、タケオ、コムボンズプー、プレイベンの各省から400人の僧が参加、チアシム国会議長が出席した。

▶フンセン首相は内外商業省で開かれた1985～86年度米買付け工作総括会議で演説し、米を買付けるには消費財を国家指定価格で十分に農民に提供することが必要であり、私的商人と競争するためには遠隔の地にまで出張する移動店が必要だと述べた。なお1985～86年度食糧買付量は計画の44%、中央政府への引渡し量は計画の37%であった。

10日 ▶9月26日と29日にカムボト省カムボト地区の Veal Vong 陣地のカンボジア人兵士157人が叛乱を起こし、ベトナム兵若干を殺傷し、自由になった(VONADK)。

15日 ▶CGDK外務省声明：国際旅行社がアンコールワットへの外国人ツアーを組織するとの報道があるが、これはベトナムがカンボジア情勢を完全に支配しているとの印象を与えるために仕組んだことである。全土で戦闘が行なわれているので、カンボジアへの旅行はきわめて危険である、したがって旅行者に何が起ろうともCGDKは責任を負うことはできない。

18日 ▶SPK、国連でのカンボジア問題の討議はカンボジア人民の唯一合法的で正当な代表者たる PRK 政府代表が参加していないので無効であると論評。

▶コムボンズプー省の人民法廷はボルボト軍の攻撃隊兵士10人に対して指揮官の Chea Saran に死刑を、他の兵士に4年の刑から終身刑を宣告した。

24日 ▶モスクワに滞在中のヘンサムリン書記長はノーボスチ通信と会見し、PRKは民族和解のためにボルボト派を除くという条件で反対派と話し合う用意があると語った。

27日 ▶PRK外務省、1986年10月15日、タイ軍が空軍と砲撃の援護の下バタムバン省アムビル地区南西にある Hill 537 を攻撃し占領したと非難した。

30日 ▶キューサンバン副大統領のシアヌーク大統領へのメッセージ(オーストラリア大使館経由のベトナム側申し出に対するコメント)(1)この申し出はベトナムが一層苦境に落ち込んでいることを示すものである、(2)ベトナムはシアヌーク殿下とその「かいらい」とを話し合せようとしている、(3)「かいらい」とは話し合うべきでない、話し合いは侵略者ベトナムとその犠牲者 CGDK との間で持たるべきである。ヘンサムリンやフンセンがベトナム代表団の一部として参加するのはいい。しかし協定ができた時の調印者はシアヌーク殿下とチュオン・チンあるいはフアムバンドンの2者である。かくしてベトナムはわれわれを見下すことはできない。

▶VODKによれば、10月15日シエムレアブ省の Srei Snam 地区に駐屯するカンボジア人兵士が叛乱を起し、ベトナム人省知事と省委員会の委員1人を殺した。地区住民を西部国境の強制労働に狩り立てたことに反対したのが理由。

## 11月

2日 ▶ASEAN 諸国はオーストラリアがブノンペンに非政府系の援助調整センターを10月2日設立したことに不快感を示した。現在インドシナでは Australian Freedom from Hunger Campaign, Save the Children Fund, Australian People for Health, Education and Development Abroad の3団体が活動している。ASEAN はオーストラリアがブノンペンに衛星地上局を設置することにも不快感を示している。

3日 ▶DK 国民軍はコムボンチュナンのベトナム軍空港を攻撃、10人を殺し、7人を負傷させた(VODK 11月9日)。

6日 ▶パレスチナ解放民主戦線(DFLP)代表団(Yasir 'Abd Rabbuh 政治局員兼書記長補)、4日間のブノンペン訪問を終える。

7日 ▶CGDKのシアヌーク大統領はパリでの記者会見で、カンボジア問題を解決するにはハノイはCGDKと話し合いをしなければならない、PRKの代表はベトナム代表団のなかに含まれると語った。

8日 ▶PRKのフンセン首相はAFP記者との会見で、カンボジアのゲリラはブノンペン政府に今なお困難を引きしつづけるが、もはやその存在を脅してはいない、困難はあるが、PRKは自分の足で立てるので1990年までにベトナム軍は撤退できる、今日まで、5万7000人のベトナム人がカンボジアに帰ってきた、彼らは1970年以前にここに住んでいた人々であると語った。

13日 ▶東独との間に1987年の貿易協力についての議定書に調印。これによればカンボジアはゴム、木材、大豆、煙草、その他の農産物を、東独は輸送手段、化学肥料、タイプライター、カメラ、薬品を提供する。

15日 ▶シアヌーク殿下個人の代表事務所は、殿下はベトナムの提案(10月30日参照)を拒否したのではなく代りの提案を行なったのであると発表した。提案は、(1)シアヌーク殿下とベトナムのチュオン・チン書記長もしくはフアム・バン・ドン首相との会談。ヘンサムリン議長あるいはフンセン首相がベトナム側として同席してもよい。(2)すべての関係者による国際会議の2点より成る。

18日 ▶CGDKの最高軍事会議、ANSのラナリト殿下を議長としてDK国民軍のソンセン司令官、KPNLFの Sak Sutsakhan 将軍が今乾期における軍事協力を討議。



19日 ▶BP 紙によると DK のボルボト氏は病気のため数週間前に基地を離れ、目下北京で治療中。

24日 ▶PRK とチェコとの間で1987年度物資交換に関する議定書が調印された。カンボジアはゴム、木材、大豆を輸出し、チェコは衣類、化学原料、薬剤原料、トラクター、医療機器など300万\$を提供する。3月19日には1986～90年の物資交換協定とチェコの対カンボジア援助協定が調印された。これによるとチェコは合板プラントの設備、繊維工場とタイヤ工場の拡張工事、ディーゼル機関車2台とその部品など600万\$の借款を供与する。

28日 ▶CGDK 外務省声明、再びアンコールワットへの旅行の安全について警告(10月15日参照)。

29日 ▶PRK 国会高級代表団(チアシム国会議長)アルバニアへ出発。

▶KPNLF の国防相 Im Chhudet 大佐は記者会見で、ソンサン首相に反抗したグループ、Sak Sutsakhan 司令官、Dien Del 参謀長、Huy Kanthal 元首相、Abdul Gaffar Peang-Meth 博士らは首相に解任されたが、今なおその地位に留まっている、ソンサン首相は和解の措置をとるだろう、と語った。

## 12月

3日 ▶VONADK, DK 国民軍、プルサトからブノンベンへ米をはこんでいる列車を Totoeng Thngai 駅と Krakor の Kamreng 駅の間で攻撃。ベトナム兵35人を殺し、48人を負傷させた。

10日 ▶内閣改造 (1)フンセン首相の外相兼任を、ブータン副首相の国防相兼任を、チアソト副首相の計画相兼任をそれぞれ解く、(2)コンコルム (Kong Korm) 第一外務次官を外相に、コイブンタ (Koy Buntha) 国防次官兼参謀長を国防相に、チアチャント (Chea Chanto) 第一計画省次官を計画相に任命する。(3)フンセン政治局員兼中央書記の党中央委外交委員会議長の職を解き、その職にヨスソン (Yos Son) 中央委員を任命する。(4)ジトムンチ (Dit Munti) 人民最高法廷副議長を外務次官に、Ke Kimyan 党バタムバン省委書記代行を国防次官兼参謀長に任命する。

15日 ▶VODK は、内閣改造に関してカンブチア政府ではすべてのことがベトナム人によって決定されるから、手先を変えても何ら新味はないと論評した。

16日 ▶ソ連・カンブチア政府間委員会で、(1)経済協力に関する議定書(若干のプロジェクトの再興とゴム生産の拡大をソ連が援助する)が調印された。他に次の二つが調印された。(2)1987年度貿易支払に関する議定書、(3)ソ連の1986～90年の無償援助協定(300のスカラシップを与える、150人のソ連専門家を農業プロジェクト調査の

ため派遣する)。ソ連側からは V・K・グセフ副首相が調印した。

17日 ▶VODK、ベトナムの党大会でレ・ドク・ト派が後退したのはカンボジア作戦の失敗によるものと論評。VODK はまたバン・ティエン・ズン国防相、チュー・フィ・マンが大会に出席しなかったのもカンボジアでの失敗によると報道した。

19日 ▶DK 国民軍、シエムレアプ国際空港をロケット攻撃。特別部隊はアンコール附近に駐屯する7705師団本部を攻撃しベトナム兵13人を殺し、15人を負傷させた。

21日 ▶ベトナムの高級軍事筋は AFP に対して、今乾期の終わり、1987年4月か5月に、さらに多くの兵士をカンボジアから撤退させる予定である。状況によって5万から6万の撤退もあり得ると語った。同筋は、カンボジアでの戦いは政治面に移行している、クメール・ルージュは兵力の補充の必要から政治活動を強化している、彼らはまた来るべき政治解決にも備えている、いずれにしろ1990年にベトナム軍が撤退することには変わりがない、と語った。

24日 ▶BW 紙によると KPNLF のソンサン議長とストサカン(Sak Sutsakhan)司令官との和解の試みは失敗に終わった。

25日 ▶オーストラリアの旅行社 Orbitour が組織したアンコールワット観光旅行一行14人はシエムレアプとアンコールワットを見物して無事バンコクに帰着した。一行は22日ブノンベンに着き、アンコールでは半日を過ぎたが、戦争の気配や痕跡は見当らなかったと語る。

26日 ▶中国の趙首相はシアヌーク大統領のために宴を催し、その席で中国が連合政府の8項目提案を支持することを表明した。

▶KUFNCD(カンブチアの建設・国防の統一戦線=略称祖国戦線)の第6回全国評議会ブノンベンで開催。

27日 ▶DK 国民軍はバイリン地区 Chamka Kafe のベトナム軍連隊に攻撃をかけ、ベトナム兵150人を殺し、86人を負傷させた。

## 重要日誌 ラオス 1986年

KPL=ラオス通信 Khaosane Pathet Lao, P 紙=人民革命党機関紙 Pasason, VDS=ビエンチャン  
国内放送, また BW, N, BP はタイ日刊紙でそれぞれ Bangkok World, Nation, Bangkok Post

## 1 月

7 日 ▶東独代表団(Gerhard Schuerer 政治局員候補, 副首相, 国家計画委員長)来訪。

▶ラオスと東独は, 1986~90年の国家経済計画における協力議定書に調印。これによると東独はコーヒー生産と, 木材伐採に協力することになった。また東独は, 道路建設機械をかうために借款を供与する。

13 日 ▶ハンガリー政府代表団(Lajos Paluvgi 党中央委員, 副首相兼国家計画委員長)来訪。

14 日 ▶ソ連政府代表団(ニコライ・タルイジン第一副首相兼国家計画委員長)来訪。ソ連とラオスは, 1986~90年国家計画調整での相互協力に関する議定書に調印。

18 日 ▶米上院の在郷軍人委員会議長 Frank Murkowski 議員はラオスを訪問し, シバースト外相および Souban Salitthilat 外務次官と会談した。

▶第3回ウドムサイ省党大会は, 3152人の党員を代表する 139 人の代議員を集めて開かれた。19日, カイソン書記長も演説し, この大会が新しい経営管理システムを導入することを目指したものであると述べた。

19 日 ▶ラオスを訪問した米下院議員団の 1 人は, ラオス政府がラオスで行方不明になり今なお生存している米人の捜索のために米国人が, ラオスを訪問することを拒否した, と語った。

24 日 ▶シバースト外相はビエンチャンで, ベトナムのタク外相との間で国境画定補足協定に調印した。両国は 1977年 7 月 18 日の国境画定協定に基づき, 78年 7 月 25 日, 国境画定共同委員会を設置した。以来 7 年間, 委員会は現場で 2000km の国境を画定した。

28 日 ▶ビエンチャンの外交筋は, 米国・ラオス関係は米議会がラオスに対する経済援助禁止措置を止めるべきである, と決議したことによって好転へ向かったと述べた。Souban 外務次官は, 米議会の決定に感謝するとともに両国関係に進歩があったことを示すものであると語った(AFP)。

29 日 ▶タイの Sitthi Chirarot 内相は, ラオスとの国境で貿易拡大のためこれ以上通過点を開くのは反対である, と語った。

▶ラオス司法省と東独司法省間に, 1986~87年度の協力計画が調印された。東独からは Dr. Herbert Keren 第一司法次官が出席。

30 日 ▶カンブチア人民革命党の中央委員会対外関係委員会代表団, 9 日間のラオス訪問を終了。

▶ビエンチャンで最高人民会議(PSA)開催。(1)PSA 常務委員会に 2000 年までの長期目標, 第 2 次 5 カ計画(1986~90年), 1986年度行動計画を提示するよう要請した。(2)第一次憲法草案と選挙法案を承認, (3)1986年度行動計画目標と予算案を承認。スファヌボン大統領は, 新しい経営システムの実施は歴史的意義を持つものであることを強調した。

## 2 月

1 日 ▶ラオス人民革命党(LPRP)代表団(ヌハク・プムサバン政治局員兼副首相), キューバ共産党第 3 回大会出席のためキューバへ出発。

6 日 ▶スファヌボン大統領は, レーガン米大統領の誕生日に祝電。

11 日 ▶ビエンチャンで, ラオス・ソ連友好協会設立 10 周年記念集会。1000 人が出席。

▶ラオス外務省, タイに覚書を手渡し, ラオス軍兵士がタイ人民を攻撃した, とのタイ側の非難は全くの作り事であると全面的に否定した。

12 日 ▶ビエンチャンで, 平和のためのアジア仏教徒会議第 7 回会議が開幕。20 カ国と 15 国際機関から 200 人以上の代表が出席した。

17 日 ▶ラオス外務省プレスリリース。ラオス政府はサバナケート省の米機墜落跡の発掘を米・ラオス共同で行なうことに同意した。

19 日 ▶P 紙, 中国の覇権主義者・膨張主義者は, ベトナムの善意(春節時の停戦, 関係正常化などの提案)を拒絶し, その侵略的性格を暴露していると論評。

21 日 ▶LPRP 代表団, ソ連共産党 27 回大会に参加のため出発。カムタイ・シファンドン副首相兼国防相。Sisomphon Lovansai 政治局員, Oudom Khatti-gna シェンクワン省党書記。

25 日 ▶米・ラオス発掘チームは, 南部ラオスで 1972 年 3 月 29 日 14 人を乗せて墜落した AC-130 機の遺体を発見した。MIA はインドシナで 2433, うち 1797 がベトナム。

## 3 月

3 日 ▶P 紙, Ronald Hays 米太平洋司令官のタイ訪問は, タイにおける米軍基地の強化を話し合うためである, と論評。

6 日 ▶タイ・ラオス貿易はラオスの輸入が増えたために増大している。1985 年のタイのラオスへの輸出は約 3 億 2000 万に達した。ノンカイでの国境貿易も 2 億~3

億でであった。

▶ビエンチャン放送は、タイ当局が戦略的物資をラオスに売ることをタイ商人に禁止している、と非難。

7日 ▶カイソン書記長は、ラジオ・モスクワ記者との会見で、ソ党27回大会の教訓は、依怙愚民主義に基づく経営管理方法を止めて、経済計算と社会主義経営方法へ移行する、企業や経営単位の集団主権を高める、管理について中央と地方の役割を明確にするなどに努力しているわれわれにとって有益であると語った。

8日 ▶ビエンチャンで、経済文化科学の分野におけるインドシナ3国の労働協力についての会議開催。ラオス代表、Nouphan Sitphasai 国家計画委副議長、ベトナム代表 Le Khac Hieu 労働次官、カンボジア代表 Ti Yav 計画省次官。

12日 ▶スウェーデンのバルメ首相の葬儀にラオスから代表団(Phao Bounnaphon 運輸郵政相)出発。

14日 ▶LPRP 書記局、党創立31周年記念を祝賀するについての指示を発表。

17日 ▶ベトナム国会代表団(グエン・フー・ト議長)来訪。

▶Sali Vongkhamsoo 副首相兼国家計画委員長は、ラオス・モンゴル貿易協力に関する議定書に調印した。モンゴルの対外貿易次官 N. Bavuu は、13日からラオスを訪問中。

▶ボンビチト副首相、チェコ、東ドイツ、モンゴルの党大会出席のためビエンチャンを出発。

18日 ▶LPRP のビエンチャン党委第1回大会が開かれ、S. Keobounphan 書記が報告を行なった。200人の代表が出席した。

▶ビエンチャンで、インドシナ3国労働組合会議、代表団長はカンボジアが Mat Ly 政治局員兼労働総同盟議長、ラオスが Thitsoi Sombatdouang 中央委員候補兼労働総同盟議長、ベトナムが Pham The Duyet 中央委員候補兼労働総同盟書記。

20日 ▶タイのシティ外相は記者会見で、ラオスの輸入の50%はタイからである。タイは Nam Ngum ダムの電力を買うために年6億\$を使っている、過去2年ラオスがタイから買った商品は4億\$、また国境問題は地方レベルで解決できることを明らかにした。

21日 ▶P紙によれば、ビエンチャン省の経済実績は次のとおり。耕作面積3万6200ha、うち1万haは51の揚水場を持ち灌漑されている。米の2期作が広がり、収量は主作がヘクタール当たり1.5tから2.4tへ、二期作が1.6tから2.6tに伸びている。焼畑耕作は1976年に比べて60%が減少した。省の農家の24%が農業集団化に加入している。

▶ベトナム共産党統制委員会代表団(Tran Kien 党書記)来訪。

27日 ▶ラオス外務省、米のリビア攻撃を非難。

## 4月

11日 ▶フォンサリ省の第5回大会が4月9～11日に開かれ、27人の新しい省党委員会を選出した。同大会には100人の代表が出席し、カイソン書記長兼首相も演説した。

14日 ▶キューバの司法大臣、ラオスを友好訪問。司法協力について合意した。

16日 ▶米国のリビア攻撃を弾劾するため、ビエンチャンで1万人の抗議集会が開かれた。

17日 ▶Sali Vongkhamsoo 国家計画委議長、ハンガリーの国家計画委代表団(Gyorgy Doro 同委副議長)と会見。

20日 ▶ラオス人民革命党中央委書記局は、メーデー100周年を祝うに当っての指示を出した。同指示に基づき、メーデー実行委員会が任命された。

21日 ▶新しい経済管理システムについての討論コースに参加している閣僚達に対して、カイソン首相は、ラオスの現状は新しい経済管理システムを要求している、われわれは断固たる決意でこの改革を成し遂げねばならない、と語った。

24日 ▶サバナケット省 Sepon 地区の第5回党大会が開催され、同地区の371人の党員を代表する100人の代議員が出席した。大会は15人の執行委員を選出した。

27日 ▶カイソン首相は、マルクス・レーニン理論についての特別学習コースで演説し、第27回ソ連共産党大会の意義を強調するとともに、第3期中央委の第9決議を実現するために奮闘するよう訴えた。

## 5月

1日 ▶ビエンチャンでのメーデー集会では、スファヌボン大統領が演説。

7日 ▶P紙、ワシントンとASEANはカンボジアの内政に一層深く干渉していると非難。

13日 ▶ポリカムサイ省 Paksan 地区の党大会が終わる。地区党員を代表して31人の代表が出席し、Somsavat Lovansai 地区党書記長が基調報告を行なった。

▶プーミ・ボンビチト副首相は、東独の第11回党大会とチェコの第17回党大会に出席して帰国した。

31日 ▶カイソン書記長は、40日間にわたって行なわれた高中級幹部や企業長を対象とした幹部会議で演説し、官僚的国家補助型の経済管理方式から新しい経済管理方式への転換は、ラオスにおける社会主義経済建設に不可

欠な条件であると、述べた。

## 6月

2日 ▶LPRP中央委員会、第10回総会についての新聞公報を発表。総会は5月15日から5月31日まで開かれ、カイソン書記長によって提出された政治局の過渡期の総路線の精神、内容について意見の一致をみた。具体的には2000年までの任務、方針、戦略と1990年に終了する第2次5カ年計画の方向、任務、到達指標および手段である。総会は政治局と書記局に、第4回党大会に提出すべき政治報告草案とその諮問案を作成することを委任した。下部での討論を経て、草案は第11回中央委総会でより完全なものにされることになる。

6日 ▶外務省、タイ・ラオス関係を改善するために、両国の権限を持った政府代表団がバンコクあるいはビエンチャンで話し合うことを再度提案。以前は1985年6月6日に提案された。

▶Thonglai Kommasit 准将(タイとの交渉に派遣された政府代表団のスポークスマン)は、パクライ地区で外人記者と会見し、バンコクで1984年に2回会談したが、タイ側は会談を打切った。なぜこの問題が解決していないかというと、(1)タイ側が3村がラオスに属することを認めていない、(2)タイ軍はラオス領内でまだ活動が続けている、(3)タイ領へ引連れていった住民を帰すことを拒否している、(4)タイ側は占領中人民に与えた損害賠償を拒否しているからである、と語った。

9日 ▶タイ外務省スポークスマンは、バンコクはラオスとの間に何の懸案も持っていないし、それを解決しようとの最近のラオスの提案もとおりあげないと語った。Mai, Klang, Sawang の3部落は、1984年のラオス軍との衝突の後、タイ軍が撤退したので、3部落は現在ラオスの支配下にあると語った。

11日 ▶ラオス向けソ連援助物資、アスファルト120万トンがタイ当局が通過を許可しないため、タイの Khlong Toei 港で2カ月間据え置き。

12日 ▶タイ外務省の Asa Sarasin 次官は、地方レベルの関係が改善して国家レベルの話し合いも実現するとして、ラオス外務省の6月6日の提案を拒否した。タイ側は争いを避けるために3村から撤退したがラオス領だと認めたわけではない、両国が帰属を解決することになろう、と語った。

16日 ▶BW紙によると、6月14日パテトラオの30~40人からなる一隊がタイの Chiang Kham 西方15km の Ban Huai Pong 村を攻撃し、ラオス移民35人を殺し、14人に負傷させた。Huai Pong 村には104人のラオス密入国者が住んでいる。

18日 ▶Souban Salitthilat 外務次官はタイ国大使を呼び、タイのパヤオ県 Chiang Kham 郡 Huai Pong 村で6月14日起きた事件についてのラオス政府の立場を伝えた。ラオス軍が難民を攻撃したというタイの主張は根拠がない、と主張した。

▶BW紙によると、6月12日ビエンチャンからパクセに向かって13号道路を走行中の政府軍トラック部隊(5台)が、Bolikhann 県で待伏せ攻撃を受け、20人以上が殺された。

19日 ▶カイソン首相は、新任の朝鮮人民民主主義共和国大使を接見。

23日 ▶ソ連との間に、1986~90年文化・科学協力協定を調印。

26日 ▶軍総政治局では6月11日から26日まで、第4回LPRP大会の政治報告草案の研究会を開催した。

28日 ▶ビエンチャンでLPRP 創立35周年を祝い集会。スファヌボン大統領、シファンドン国防相ら1000人が参加。

## 7月

5日 ▶P紙は社説で、1986年5月15日から31日まで開かれた第3期中央委員会第10回総会の決定に基づき、政治報告草案の検討運動を進めるよう訴えた。

11日 ▶ラオス人民革命党(LPRP)中央委、閣僚会議はレ・ズアン書記長の死に際して11日から15日まで、全国が喪に服するよう指令した。

12日 ▶最高人民会議副議長、ラオス国家建設戦線副議長であった Faidang Lobaliayao (Mong 族)が76歳で死去。葬儀委員長はスファヌボン大統領。

13日 ▶党と政府の代表団(カイソン党書記長)、レ・ズアン書記長の葬儀出席のためハノイへ出発。同行者はシファンドン国防相、Lovansai 政治局員、Inpong Khaignavong 党対外関係委の副主任、Khamfeuan Tounalom 駐越大使。

17日 ▶Amnesty International は、ラオスに対し6月14日、タイのパヤオ県でラオス軍がラオス難民35人を虐殺したという申し立てを、調査するよう訴えた。

21日 ▶パリの『フィガロ』紙 Charles Denon 特派員、ラオスの反政府抵抗勢力の基地を訪問。同特派員によると、ラオス西北部にある基地はタイ国境からかなり奥深く、到着に数日を要した。ラオス統一民族解放戦線の指導者の1人 Thonglith 将軍は、パリで軍事教育を受けたことがあり、フランスに7年間亡命した後1983年帰国して地下活動にはいった。同戦線は元ラオス右派の指導者で結成され、主要な武装勢力はメオ族を率いるバン・バオ将軍の部隊で、兵力はラオス全土で6万と言われている。

いる。Thonglith 将軍の基地は10の小屋からなり、兵力は8000とのことであった。彼らはベトナムの Vinh 港から Thakhek 間のパイプラインを破壊したり、13号道路で輸送隊を襲撃しているとのことである。

25日 ▶政府の各省庁および軍の単位で、第4回党大会に提出される政治報告草案の検討会が開催される。

29日 ▶ソ連訪問から帰った経済商業代表団の Vantong Sengmuang 団長は、モスクワで二国間経済協力、商品交換、決済に関する協定、1986～90年度対ラオス科学技術援助協定および1986年度商品交換に関する議定書に調印した、と語った。これらの文書によると、ラオス側は木材製品、錫、コーヒー、森林産物の輸出クォータを増加させ、ソ連側はラオスに機械、運搬機器、石油建設資材、必要品を供給することになった。

▶LPRP中央委員、ラオス・ソ連友好協議長 Kham-souk Sai-Gnaseng 国務相がモスクワの病院で死去。71歳。党政治局は8月5日、Sali Vongkham-sao 党中央委員書記、副首相、国家計画委員長を葬儀委員長に任命した。

30日 ▶P紙社説、LPRPの10年間の活動成果を誇示。過去10年間に党員数は2倍、県級以上の指導幹部の数は4倍、専門知識を持つ技術幹部は5倍になった。社会総生産は10年間に2倍に、1人当たりの国民所得は60%増加した。農業生産の分野では単作から多毛作への転換が進んでいる。1985年の穀生産は76年の2倍となり、食糧自給は基本的に達成された。1人当りの穀生産量は1976年には250kgであったものが85年には350kgとなった。解放前に比べてコーヒー生産は2倍、煙草は3倍、家畜の数は60%増加した。現在5省で農業の集団化が進められている。

過去10年間に工業生産は4.4倍、繊維製品は3.7倍、ビールその他の飲料は60%、洗剤は14.5倍増加した。石こう、セメント、磁器製品、ガラス、プラスチック製品などが新たに生産されるようになり、輸出するものもある。運輸通信の分野では3000kmの道路と700の橋を修復・建設した。92の郵便局と45カ国との長距離通話が可能で94の電話センターを設置した。文盲は一掃され、人口の4分の1が各級の学校に通っている。

31日 ▶ニカラグアの党政府代表団(Henry Ruiz, FSLN 政治局員)来訪。

## 8月

4日 ▶ビエンチャン駐在のタイ外交官によると、ラオスは、国家貿易会社を通さないで地方の省にタイからの輸入を認めている。第2次国家発展計画を実現するため、今年ラオスは機械、麻袋、部品、農機具など4000万\$の輸入を計画している。今年前半タイは、前年同期比91%

増の2億7000万\$を輸出し、22%減の1423万\$をラオスから輸入した。

▶8月4日と5日の2日間、カイソン首相司会の下に閣議開催。ここでは第1に中央政府が行政的指令を与え、損失があればすべて補助するという経済管理方式を止めて、経済単位を今年末までに一つの自主権を持った企業に変えろとの決議を採択した。第2にカイソン首相は、平和共存を目指してすべての紛争を話し合いを通じて解決するという、全般的政策を考慮してタイ・ラオス両国関係を改善するための話し合いの時機である、と述べた。

8日 ▶閣議、経済部門を財政的に独立した社会主義的企業に転換させることについての政令を発表。第1条は、今から年末までに、経済部門を経済的に独立した企業に転換させるが、それは2段階にわけられる。8月と9月は各省庁、各地方、首都ビエンチャンは若干の企業を選んで独立企業に転換させ、それから教訓を得る。第2段階は10月から12月まで、残りの部門を転換させる。その他の条で中央地方の各機関は各部門の経営幹部のための訓練コースを組織することを勧告している。

12日 ▶日本政府は、ビエンチャンの発電所第2期工事用として、ラオス政府に5億1300万円の援助を与えることに同意した。

▶カイソン首相、タイのプレム首相の再任祝いのメッセージを送る。

13日 ▶VDS、シティ外相は、タイの反動的外交政策の責任者であり、タイ・ラオス関係の改善を遅らせている元凶の一人であると非難した。

▶LPRP書記局、第4回党大会への政治報告草案の研修会が表面的で、それぞれの単位の5カ年計画実施に結びつけた議論が行なわれていない、と指摘し、研修会が政治運動となるように指示した。

14日 ▶ジンバブエ共和国と大使級の外交関係を樹立することに合意した。

▶ビエンチャンの党委員会は、第4回党大会開催についての警備関係者の会議を開いた。

17日 ▶シバースト外相、ハノイで開かれたインドシナ外相会議に出席。

18日 ▶タイのN紙によると、1986年末にラオスの反政府勢力の全国大会が開かれ、新しい指導者が選ばれらるうと報道。1985年11月ラオス解放のためのラオス人民の統一戦線(UFLPLL)の議長であったブーミ・ノサバン将軍が死亡したため、UFLPLLは新指導者を選ばねばならない。ノサバン将軍は1982年10月反共ラオス解放運動の結成を宣言した。ノサバン将軍の指導下に軍事関係を Khamkhong 将軍(元ラオス第2軍区司令官)が、政治関係を Thao Khamouan Lattanavong(元銀行

家)が担当していた。他に後継者候補として Khamkou 元情報将校も挙っている。UFLPLL は1976~80年に、南部ラオスの抵抗勢力を統合した組織で、兵力7500と言われている。他に抵抗運動としては、バン・パオ将軍に率いられるラオス民族解放統一戦線 (United Front for National Liberation of Laos, FUNL) があり、兵力は2000~3000で北部で活動している。1982年に設立され、軍司令は Thonglith 将軍である。第3のグループは Chao Boun-eua Na Champassak を指導者とするものである。UFLPLL ではノサバン将軍が1981年、民主カンボジアのソンセン国防相と会談して協力を約束したために、協力に反対する Phagna Inpeng らの分裂騒ぎがあった。

19日 ▶ソ連の I・ロガチョフ 外務次官、19日から21日まで友好訪問。

20日 ▶P紙、第13回インドシナ外相会議を論評。カンボジア問題について当事者が二つの基本的問題、ベトナム軍の撤退とボルボト一派の解体に同意すれば、直ちに話し合いが可能であるという立場を明らかにした。また3国は、独立を守りながら中国との関係を正常化し、善隣関係を樹立するよう努力するとの立場を明らかにした。隣国政府を不安定にするために自国領土が使われるのを許さないとのタイ外相の声明(8月13日)を歓迎する、ゴルバチョフ書記長のウラジオストク演説を支持する、と論評した。

27日 ▶Maisouk Saisompheng 工業・手工業相は、電気、煙草、ビール、清涼飲料および木工企業などの経済部門では、生産における自主権が与えられつつあると語った。彼によると、電気、煙草、ビールおよび清涼飲料の企業では、この7月から労働者の生産性に基づく賃金システムを実施し、生産を刺激している。これらの企業には、9月から完全自主権が与えられる予定である。木工企業では、9月から新しい賃金システムを実施している。今他の企業でも、1986年10月から自主権付与に備えて、生産計画の見直し、運転資金の調達、物資・装備・労働力の使用計画の見直しが進んでいる。

▶スファスボン大統領、非同盟運動会議出席のためにジンバブエのハラレへ出発。

## 9月

13日 ▶ラオス電力会社では他の国営企業と同様、新しい経済管理システムの実験を実施中である。賃金を労働生産性に基づいて決定する試みがなされている。工業・手工業省は、ナム・グムで生産される電力10kWhに対して17%の賃金を設定した。1986年ナム・グム・ダムは、9700万kWhの電力を生産し、8月分給与として970万\$を受けとった。

15日 ▶VDS、「過去10年間の軍と国家建設」を放送。軍は党と国家によって、農産物、林産物を開発すること、外国から商品を買入れることを許可され、山岳地域の開発に従事してきた。

▶カイソンとスファスボン大統領は、連名でベトナムのチュオン・チン書記長・国家評議会議長、ファム・バン・ドン首相、グエン・フー・ト国会議長に、ベトナム北部を襲った台風の被害についての見舞いのメッセージを送った。

18日 ▶プーミ・ボンビット副首相は、訪問中のPRK保健相(Yit Kimseng)と会見。

20日 ▶ラオス・ベトナム国境画定条約補足議定書に調印。

22日 ▶タイのシティ外相は、軍および治安関係が273禁輸品目の一つである30万本の有刺鉄線をラオスに売ること同意した、と語った。

▶ラオスの駐タイ大使はバンコクで記者会見し、「タイは八つある通過地点のうち、二つを開いているのみである。われわれはタイ側がもっと多くの国境通過地点を開くよう要請しているが、返事がないままになっている」と語った。

▶KPL、東ドイツ(GDR)は、技術・物資援助として年平均1200万\$をラオスに与えてきた。しかし、1986年は7月8日ベルリンで調印された協定にあるように、援助額は1800万\$となろう。これはラオス人学生の東独での留学費用、ラオスにおける林業や会計専門学校建設資金などを含んでいる。両国の協力は1982年の友好協力条約の調印以来すべての分野で改善され、現在東独専門家がラオスの経済建設現場で働いている。

24日 ラオス外務省は覚書を発表し、両国首脳相互のメッセージで確認したように、両国の善隣友好関係をさらに促進するために、タイ側も高級会談準備を話し合う専門家代表団を任命するよう要請した。

25日 ▶国連総会に出席している Souban Salitthilat 外務次官はタイのシティ外相と会談。同次官は両国の善隣関係回復のための高級会談を実現するために、その準備を行なう専門家チームをラオス側に派遣するよう申し入れた。

27日 ▶ブルガリア共産党中央委対外関係委員会代表団(Angelov Georgiev 副委員長)、5日間の友好訪問のため到着。

28日 ▶ラオスの通信社 KPL とソ連の TASS と間に、協力協定がホー・チ・ミン市で調印された。

29日 ▶タイ陸軍司令官 Chavalit Yongchaiyut 将軍は、タイとの善隣関係を維持するために、ラオス政府はタイ・ラオス国境で活動していると伝えられる新しい共産

党(Phak Mai)に対する支持を止めなければならない、と語った。

▶B P紙によれば、タイとラオスは25日、ニューヨークで、関係正常化の閣僚レベル会議を開催するための準備会議を、ビエンチャンで開くことに同意した。

## 10月

1日 ▶Zhang Zhiguo 参事官の主催する中国大使館での国慶節祝賀会に Maisouk Saisompheng 工業・手工業相、Khamphai Boupcha 第一外務次官らが出席。

▶P紙は末端の治安強化を訴えた社説で、治安当局の行為が人民を恐れさせている、ある地域では人民は政府を恐れ、敵に侵透のきっかけを与えていると治安工作の欠点を指摘した。

3日 ▶Souban Salitthilat 外務次官は国連総会で演説し、ラオスはタイとの関係改善と中国との関係正常化に努める意向である、と述べた。

5日 ▶VDS, Luang Namtha 省 Pang Thong の守備隊員の談話を放送。彼らは北京権力者は宣戦布告はしていないが、ラオス反動分子を訓練して領内に潜入させ、地方の行政を混乱させようとしている、と語った。

6日 ▶ルアンプラバン省では電力と運輸および部品供給の2会社を国家財政で面倒をみる経営から独立採算型のビジネス経営に移行させる実験を実施中。

8日 ▶LPRP 中央委員会第11回総会——コミュニケによると総会は9月30日から10月7日まで、ビエンチャンで開催、第4回党大会に提出する政治報告草案や第2次5カ年計画案を審議し、採択した。総会は国際情勢についても討議し、ソ連のゴルバチョフ書記長による7月28日のウラジオストクでの演説に賛意を表した。また中ソ関係の発展、中越関係改善、ラオス・中国関係の正常化およびインドシナと ASEAN 諸国間の関係の確立は東南アジアと世界の平和と安定に役立つものであるとの見解を承認した。

▶タイのムクダハン県知事はラオスのサバナケットに代表団を送り、来る10月17日のタイ仏教の四旬節のポート・レースにラオスからも参加するよう招待状を渡した。サバナケット省当局はポート・レースへ参加すると表明した。

15日 ▶モスクワを訪問したカイソン書記長はゴルバチョフ書記長と会見し、ラオスの内外政策の基本およびラオス人民革命党第4回党大会の準備状況を説明した。

18日 ▶ビエンチャン、ハノイ、ホー・チ・ミン市の3市間で1987年の産業協力についての覚え書き調印。ベトナムの両市はラオス側の紙、ガラス、プラスチック、ゴム、アンモニア、アセチレン、ソーダ製造を援助するこ

とが決定した。

20日 ▶ラオス政府は両国関係改善のためダンス・チームをタイのチュラロンコーン大学での公演に派遣することを決定した。

21日 ▶タイの関係省庁合同委員会はラオスへの戦略物資に指定されている273品のうち第1類に属する禁輸品目205のうち170品目をリストから外すことを決定した。第2類に属する68品目は政府の認可次第で輸出が可能な物資である。85年のタイのラオスへの輸出は4億8870万<sup>ドル</sup>、ラオスからの輸入は3450万<sup>ドル</sup>であった。

22日 ▶ビエンチャンでインドシナ3国で構成する第10回メコン委員会開催。

24日 ▶EEC の代表団(Claude Cheysson 高等弁務官)来訪、Sali Vongkhamsoo 国家計画委員長と援助問題について意見交換。1984年のラオスの輸出は4500万<sup>ドル</sup>、援助は1億<sup>ドル</sup>、そのうち70%が社会主義諸国からのもの。

29日 ▶人民最高議会と閣議はスファヌボン大統領(74歳)の健康上の理由からプーミ・ボンビット副首相を大統領代行に任命。

30日 ▶P紙は「新しい想像力に目を向けよう」と題する社説で「我が党は科学的技術的知識や経済社会の経営の知識が遅れている、主観的意志だけで革命の期間を短くすることはできない、自然経済に依存する生産基礎から社会主義的大規模生産への移行は長く複雑な過程である、それは機械や思想だけでは達成できない」と述べた。

## 11月

3日 ▶バンコク駐在のラオス大使はタイの投資を歓迎する、案件としてはナム・グム・ダム近くの森林からの木材伐採事業、合併の場合ラオス側が51%所有することになろう、と語った。

5日 ▶ビエンチャンでロシア10月革命69周年記念集会。Khambou Sounisai 党中央委、ビエンチャン市長が演説。

13日 ▶ラオス人民革命党第4回大会開幕——4万4000人の党員を代表する代議員303人のほかに英雄戦士ら代表200人以上、19の友好国からの代表が出席。ボンビット政治局員が司会し、カイソン書記長が政治報告を、ヌハク政治局員が1986～90年の経済社会計画について、ロバンサイ政治局員が党規約についての報告を行なった。ソ連からはアリエフ政治局員、ベトナムからはフアム・パン・ドン首相、グエン・バン・リン政治局員、PRKからはヘンサムリン書記長が出席。

14日 ▶ビエンチャン首都党委員会書記の Sisavat Keobounphan 中央委書記は第4回党大会でビエンチャンの状況を報告した。主米作地は3万6900 ha、これは全国の乾期作の40%にあたる。農民1人当りの収量は年間

360kg で自給を達成、一部余剰は国家に納入、煙草、メイズ、砂糖きび、にんにくの栽培面積は1976年比、180%増、9.6倍、3.8倍、4倍になった。現在187の農業合作社があり、農家の24%が参加している。

17日 ▶ラオスは1600人のラオス人難民をタイから引取ることと同意した。1975年以来30万のラオス人が国を脱出したが、うち1万5000人が帰国した。UNHCR 付添で帰国したものは2921人で残りは非合法で帰国、現在タイには9万のラオス人難民がいる。

18日 ▶ソ連のアリェフ第一副首相はラオスの党大会で、インドシナ3国の東南アジア情勢を正常化することを目的とした共同行動を高く評価する、3国と中国の間の建設的対話を基礎として関係を正常化することはアジア・太平洋地域の安全を強固なものにすることに一層貢献するであろう、と述べた(VNA)。

20日 ▶ベトナムの外国貿易の輸出入局長 Ngo Ngoc Vui はベトナム・ラオス貿易について次のように語った。1985年の両国の国境貿易は1983年の3倍になった。また両国の貿易全体に占める国境貿易の割合は1983年の34%から1985年には54%になった(FBIS, 11/14)。

25日 ▶北京発共同電は中国がラオスとの関係正常化を話し合うため、劉述郷外務次官をビエンチャンに派遣する、と報道。かつてラオスには10万人の華僑がいたが関係悪化のため脱出した。

▶ラオス最高人民会議議長代行にソソボン・ロバンサイ副議長を任命。

28日 ▶ビエンチャンでラオス・タイ関係正常化のための第1回会談始まる。ラオス側、Souban Salitthilath 外務次官、タイ側、Arum Phanuphong 首相顧問以下27人。

## 12月

1日 ▶N紙によればタイ・ラオス会談は順調で両者は今後も協議を続けることを約束した。またタイのアルン代表が近く輸出禁止になっていた273品目を61品目に削減すること、県知事に3万ギ(従来2万ギ)までの輸出認可権限を与えることを明らかにした。ラオス側がタイにおける米軍の武器庫問題、未解決の3村問題、ラオスの抵抗勢力(タイと中国に8000人)、ラオス難民の政治問題を提出したのに対してタイ側は Phak Mai および麻薬取引の問題を提出した。

2日 ▶ビエンチャンで第11回国慶節集会、2万人以上の人々が参加。Sisavat Keobounphan 政治局員が演説。

▶P紙国慶節を祝って1980~85年の成果を発表。GNP 54%増、粗国民所得48%増、基本建設投資41%増、生産性28%増、1人当り所得12.8%増、穀生産390kg(18%増)、農業生産増42%、タバコ32%、えんどう31%、

大豆61%、コーヒー30%、牛19%、豚29%、家禽57%、かんがい面積13万ha、1985年まで穀生産62%増、農業合作社3420、農家の53%が参加、米田の52%をカバー、工業生産42%増、基本建設投資は年10%増。

4日 ▶LPRP 第4期中央委員会第2回総会開催。カソン書記長はタイおよび中国との関係正常化のための話し合いを続けていくと演説した。

6日 ▶中国の李先念国家主席、彭真全人代常務委員長、趙紫陽首相はラオス国慶節にあたり、ラオス3首脳に祝電、そのなかで両国の関係改善を望むと表明。

10日 ▶ラオスの芸術、サーカス代表団(Hiam Phommachan 世界平和連帯協力委副議長)、タイへ出発。

17日 ▶ソ連・ラオス経済・科学・技術協力のための政府間委員会第8回会議に出席のためソ連の Vladimir K. Gusev 副首相ら到着。

19日 ▶ソ連との間に経済・科学・技術協力に関する議定書に調印。同時に1987年度貿易支払に関する議定書も調印された。これによるとソ連側は輸送機器、建設資材、石油、部品、工業品を提供し、ラオス側は木材製品、錫鉱石、コーヒー、カルダモン、農産品を提供する。

20日 ▶ラオス外務省は外交官と国際機関要員の住宅建設をビエンチャンの Construction and International Shipping Company に委託する契約を結んだ。

25日 ▶中・ラオス協議; 中国外務省代表団とラオス外務省代表団は相互の基本的立場を述べ、関係正常化のため今後の話し合いを約束した。中国側はラオスの Khamphai Bouppha 外務次官を中国に招待した。ラオス訪中国の日時は未定。

26日 ▶タイのノンカイ付近でメコン河を渡河しようとしたメオ族の一部がベトナム軍に見つかり、うち43人が射殺された。19人が渡河に成功し、14人が捕えられた(BP, 12/30)。

31日 ▶Khamphai Bouppha 第一外務次官は中国との会談について、両国は改善を望んでいること、そのために会談を続けることに合意した、と語った。同次官によればラオス側は中越関係が悪化していることと中国のボルボトへの援助がラオスの安全と中・ラオ関係改善の動きの障害になっていることを提起した。



# 1 カンボジア人民革命党中央委員会名簿

(1985年10月16日選出)

(中央委員 31 名, うち政治局員 9, 同候補 2, 書記局員 5, 中央統制委員 7, 中央委員候補 14。なお役職は, \*を付したものは1986年12月以降確認されたもの, それ以外は1985-86年に確認されたもの)

## ○ 中央委員 (政治局員)

Heng Samrin	書記長, 国家評議会議長
Chea Sim	国会議長, 祖国戦線議長
Hun Sen*	首相, 書記局員
Say Phuthang	国家評議会副議長, 党統制委員長
Bou Thang*	副首相, 書記局員
Chea Soth*	副首相
Men Sam-an	党教宣委・組織委員長, 書記局員, 党統制委員
Mat Ly	国会副議長, 労働総同盟議長
Ney Pena*	内相, 書記局員
Chan Seng	候補, シエムレアプ州臨時党委書記, 党統制委員
Nguon Nhel*	候補, プノンベン市党委書記

## ◎ その他の中央委員

Sim Ka	国家管理相, 党統制委員
Heng Samkai	スペイリエン州臨時党委書記
Sar Kheng	
Kong Korm*	外 相
Say Chhum	党統制委員
Sam Sundoeun	人民革命青年協会中央委員長
Ho Nan	
Koy Buntha*	国防相
Chan Pin	蔵相, 商相
Ke Kimyan*	国防次官
Chay Sangyun	党統制委員
Kim Yin	カンボジア放送局局長
El Vansarat*	国防次官, 総政治部局長
Hul Savoan	第4军区司令官
Yos Son*	党外交委委員長
Rongphlam Kaysone	
Som Kimsour	<i>Pracheachon</i> 誌編集長
Khay Khumhuor	プレアビハル州党委書記
Mean Sam-an*	カンボジア革命婦人協会会長
Lak On	ラタナキリ州党委書記

## ◎ 中央委員候補

Thong Khon	プノンベン市長
Ros Chhun	副計画相, 祖国戦線書記長

Hun Neng	コンボンチャム州党委書記
Chea Chantho*	計画相
Chhay Than	
Lim Thi	カンダル州臨時党委書記
Tea Banh	通信・運輸・郵政相
Say Siphon	労働総同盟副議長
Som Sopha	スタントレン州人革委員長
Chheng Phon	情報・文化相
Sam Sarit	ゴム園労働者代表
Pen Navuth	教育相
Neou Samon	シエムレアプ州人革委員長
Kham Len	

# 2 ラオス人民革命党中央委員会名簿

(1986年11月15日選出)

第4回党大会で成立した第4期中央委員会は正式委員 51人, 候補委員 9人計60人で構成される。平均年齢は52歳 (\*は中央委員会書記局員。役職は, 1986年12月以降確認されたもの)

## ○ 中央委員 (政治局員)

1. Kaysone Phomviharn	中央委員会書記長, 首相
2. Nouhak Phoumsavan	第一副首相
3. Souphanouvong	大統領
4. Phoumi Vongvichit	大統領代行
5. Khamtai Siphandon*	国防相
6. Phoun Sipaseut	副首相兼外相
7. Sisomphon Lovansai	人民最高会議議長代行
8. Sisavat Keobounphan*	ビエンチャン党書記
9. Sali Vongkhamkao*	副首相, 国家計画委員長
10. Maichantan Sengmani*	党・国家監理委員長
11. Saman Vi-gnaket*	党組織委員長

## ◎ 中央委員 (政治局員候補)

12. Oudom Khatti-gna*	
13. Choummali Sai-gnakon*	

## ◎ 中央委員

14. Somlat Chanthamat*	中央委宣伝・訓練委主任
15. Boun-gnang Volachit	
16. Inkong Mahavong	
17. Asang Laoli	
18. Maisouk Saisompheng	
19. Sounthon Thep-asa	
20. Bolang Boualapha	
21. Siphon Phalikhhan	ビエンチャン省党書記
22. Khambou Sounisai	ビエンチャン市長

23. Mrs Phetsamon Latsasima
24. Khamphai Boupba 第一外務次官
25. Osakan Thammatheva 少将, 国防次官, 総政治局  
長代行
26. Phao Bounnaphon
27. Vongphet Saikeu-yachongtoun
28. Sompheng Keobounhouan
29. Khampha Chaleunphonmisai
30. Bo-gneun Leviatmuang
31. Nakhon Sisanon
32. Khamban Chanthason
33. Thongsavat Khaikhamphithoun
34. Gnao Phonvantha
35. Mrs Thongvin Phomvihan
36. Mrs Loun
37. Thongsing Thammavong
38. Soi Sombatdouang
39. Khamphon Boutdakham
40. Thongmani Thiphommachan
41. Thonglai Kommasit 准将, 軍総政治部副局長
42. Ai Souli-gnaseng
43. Khamphoui Keoboulapha
44. Inpong Khai-gnavong
45. Siangsom Kounnavong
46. Khampan Philavong
47. Thongloun Sisoulit
48. Phimmason
49. Bouathong
50. Mrs Onchan

51. Ounla Sai-gnasan

○ 中央委員候補

1. Khamchai Souphanouvong
2. Son Khamvanvongsa
3. Mrs Pani Vangkhamtou
4. Chaleun Gnia-poteu
5. Somphan Phengkhammi
6. Bouheuang Douangphachan
7. Phimpha Thepkhamheuang
8. Khamman Souvileut
9. Khamphong Phanvongsa

☒ ラオスの第2次5カ年計画(1986~90年)

GDP 成長率	年率10%
国民所得成長率	年率9%
基本建設投資額	第1次計画(180億\$)比 57%増
農業総生産額(1990年)	1985年比60%増, 年率9.8%増
食糧生産量(1990年)	200~220万t, 1985年比 40~45%増
穀生産量(1990年)	170~180万t, 1985年比 29%増
1人当り穀生産量(1990年)	430kg, 1985年比10%増
畜産生産額(1990年)	1985年40%増
工業総生産額(1990年)	1985年比90%増, 年率14% 増